



訪問看護師が利用者・家族等から受ける暴力等の実態調査（2023年）

## 調査報告書

2024年5月18日

調査実施：一般社団法人福島県訪問看護連絡協議会 代表理事 星かおる

分析報告：一般社団法人オープンデータラボ リサーチャー 長井英之

### 一般社団法人福島県訪問看護連絡協議会

963-8041 福島県郡山市富田町字満水田27番8

ふくしま医療機器開発支援センター内

TEL: 024-926-1223 FAX: 024-926-1226

<https://odl.or.jp>

### 一般社団法人オープンデータラボ

960-0116 福島県福島市宮代字一本木15-2

TEL/FAX:024-553-4013

<https://odl.or.jp>

[info@odl.or.jp](mailto:info@odl.or.jp)

# 目次

調査概要	2
回答者の属性	6
回答内容	16
過去1年間の状況	17
訪問看護に従事する全業務期間の状況	21
事業所に対する希望	25
利用者・家族等から暴力を受けた後の影響	30
分析と考察	38
調査票	60

# 調査概要

---

# 調査の背景と目的、期待される成果

- 調査の背景
  - 訪問看護師は、利用者宅での看護業務を行う中で、身体的、精神的、性的なハラスメントを含む様々な形の暴力に直面することがあります。これらの状況は、職員の心身の健康を害し、業務の質にも悪影響を及ぼす可能性があります。訪問看護師が安全に職務を遂行できる環境の確保は、質の高い医療サービスの提供を維持する上で不可欠です。
- 調査の目的
  - 本調査は、訪問看護師が利用者やその家族から受ける暴力の実態を明らかにし、これに基づき、訪問看護師の安全と健康を保障し、安全に訪問看護を実施できる環境の実現を目指すことを目的とします。さらに、調査結果は政策提言の基礎資料として活用され、訪問看護事業所における実運用の改善に寄与することを期待しています。
- 期待される成果
  - 訪問看護師が直面する暴力の実態とその影響を詳細に把握。
  - 訪問看護の現場での安全対策および支援策の策定に資する実用的な知見の提供。
  - 政策提言や業務改善のための基礎データの提供。

# 本調査における暴力の定義

- 身体的暴力とは、殴る、蹴る、物を投げつける、刃物などを突きつける、髪をひっぱる、突き飛ばす。
- 精神的暴力とは、大声でどなる、ののしる、長時間無視し続ける、ドアを蹴ったり、壁に物を投げつける、人格を否定する。
- セクシュアルハラスメントとは、性的な行為を見せる、故意的に胸やおしりに触れてくる、見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる。

# 調査概要

- 調査対象
  - 福島県内の訪問看護事業所に所属し、訪問看護に従事する「看護師・保健師・准看護師」、「作業療法士・理学療法士」など
- 調査対象と有効回答数
  - 調査対象人数：996人（看護職：777人、リハビリ職：197人、介護職：22人）
  - 有効回答数：169人
  - 有効回答率：16.97%
- 調査方法：インターネットを利用した自己記入式、匿名アンケート
- 調査期間：2023年12月22日（金）～2024年2月2日（金）
- 調査実施主体：一般社団法人 福島県訪問看護連絡協議会

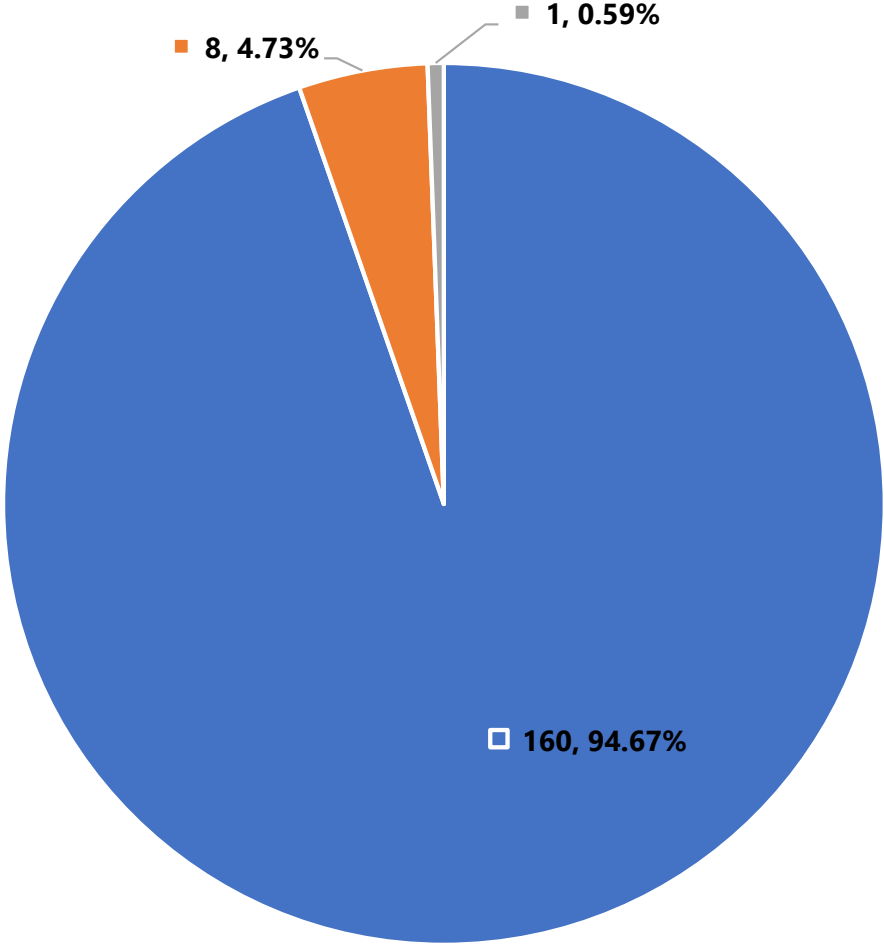
# 回答者の属性

---

# 回答者の職種

1-1.回答者の職種

■ 看護師・保健師・准看護師   ■ 作業療法士・理学療法士   ■ 精神保健福祉士

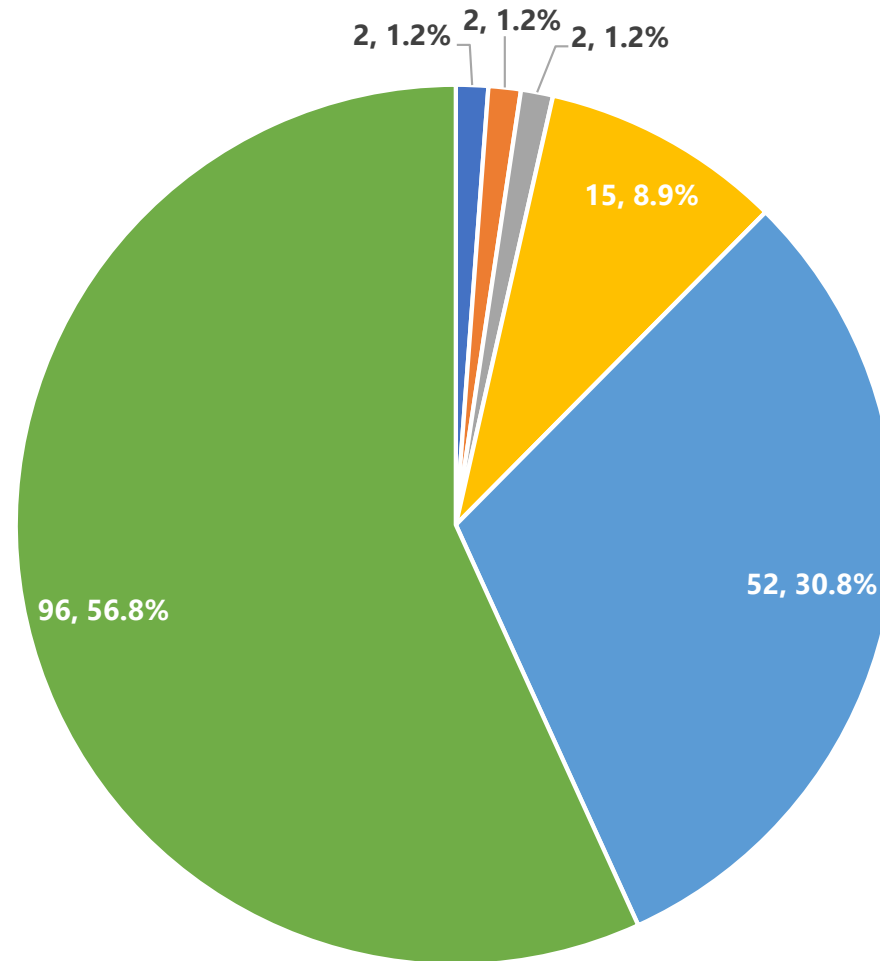




# 回答者の専門職としての経験年数

1-2.回答者の専門職としての経験年数

■ 1年未満 ■ 1年以上2年未満 ■ 3年以上5年未満 ■ 5年以上10年未満 ■ 10年以上20年未満 ■ 20年以上



# 回答者の年齢

1-3.回答者の年齢

■ 20歳代 ■ 30歳代 ■ 40歳代 ■ 50歳代 ■ 60歳代

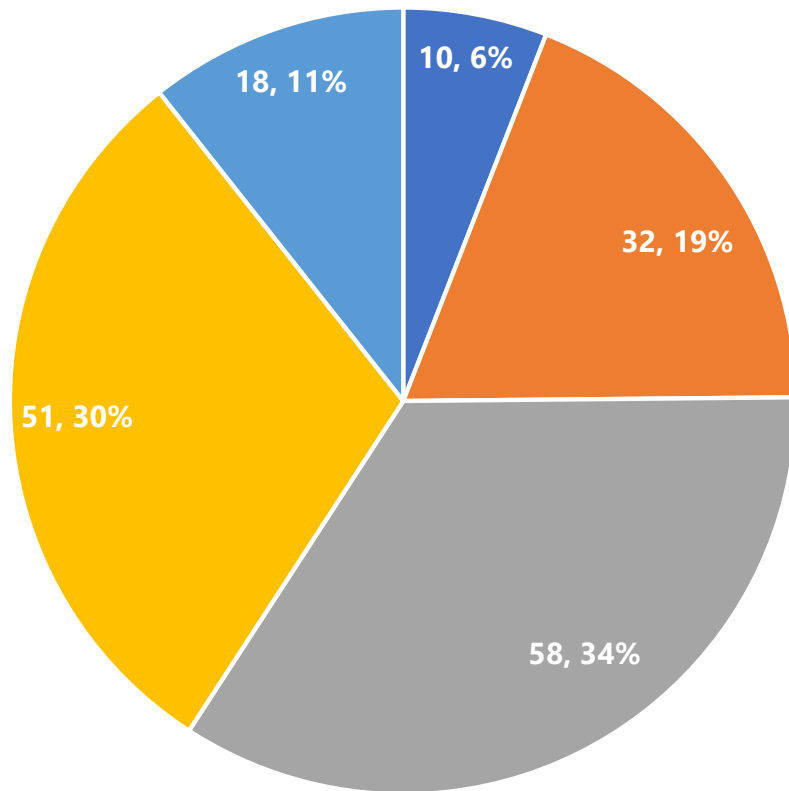


表1-3.回答者の年齢

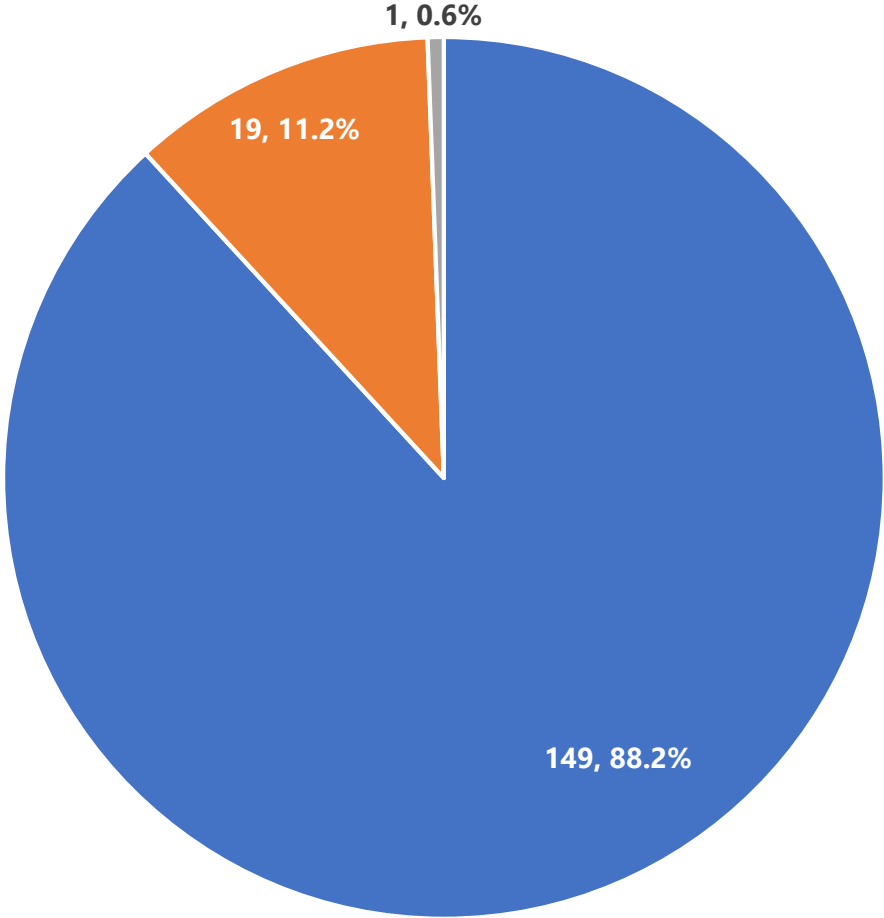
平均年齢（推定値）	47.1歳
中央値（推定値）	45歳

- 本調査では、各年齢層（20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代）を代表する年齢として、それぞれの年齢層の中間値（20歳代は25歳、30歳代は35歳、40歳代は45歳、50歳代は55歳、60歳代は65歳）を用いました。これにより加重平均や中央値の推定を行った。
- この方法による推定は、各年齢層の具体的な年齢分布が不明であるため、一般的な統計的手法を用いた近似値として解釈する。

# 回答者の性別

1-4.回答者の性別

■ 女性 ■ 男性 ■ その他



## 参考：年齢と性別のクロス集計

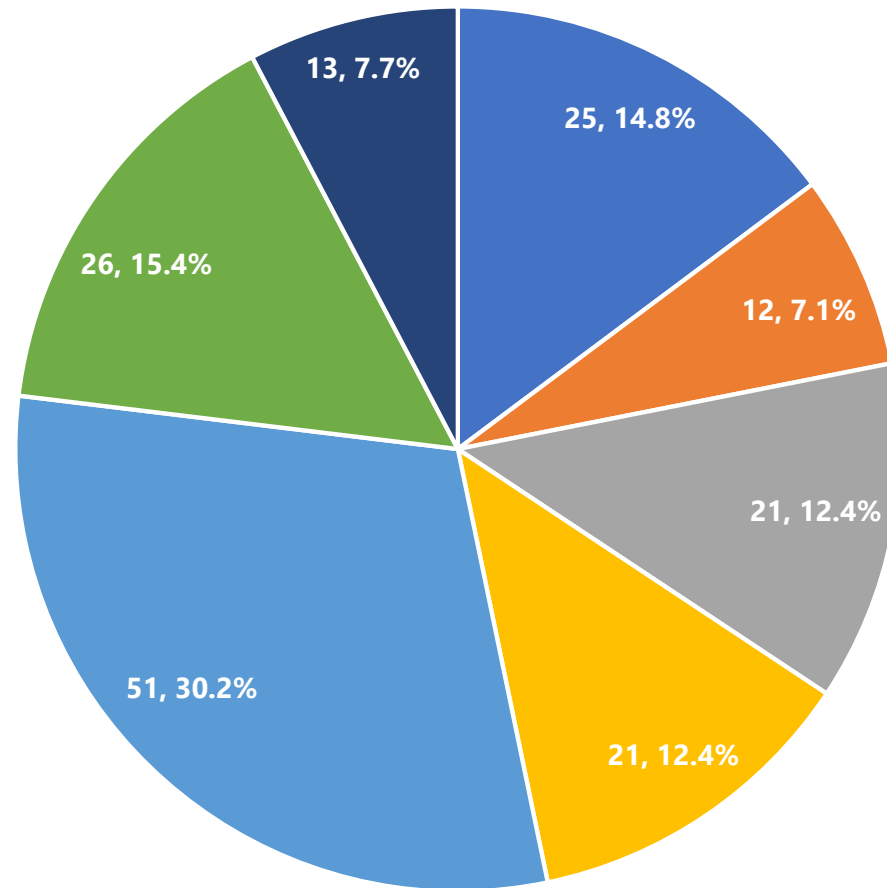
表1-1.回答者の年齢と性別 クロス集計

	女性	男性	その他	総計
20歳代	8	2		10
30歳代	27	5		32
40歳代	51	7		58
50歳代	48	2	1	51
60歳代	15	3		18
集計	149	19	1	169

# 回答者の訪問看護事業所での経験年数

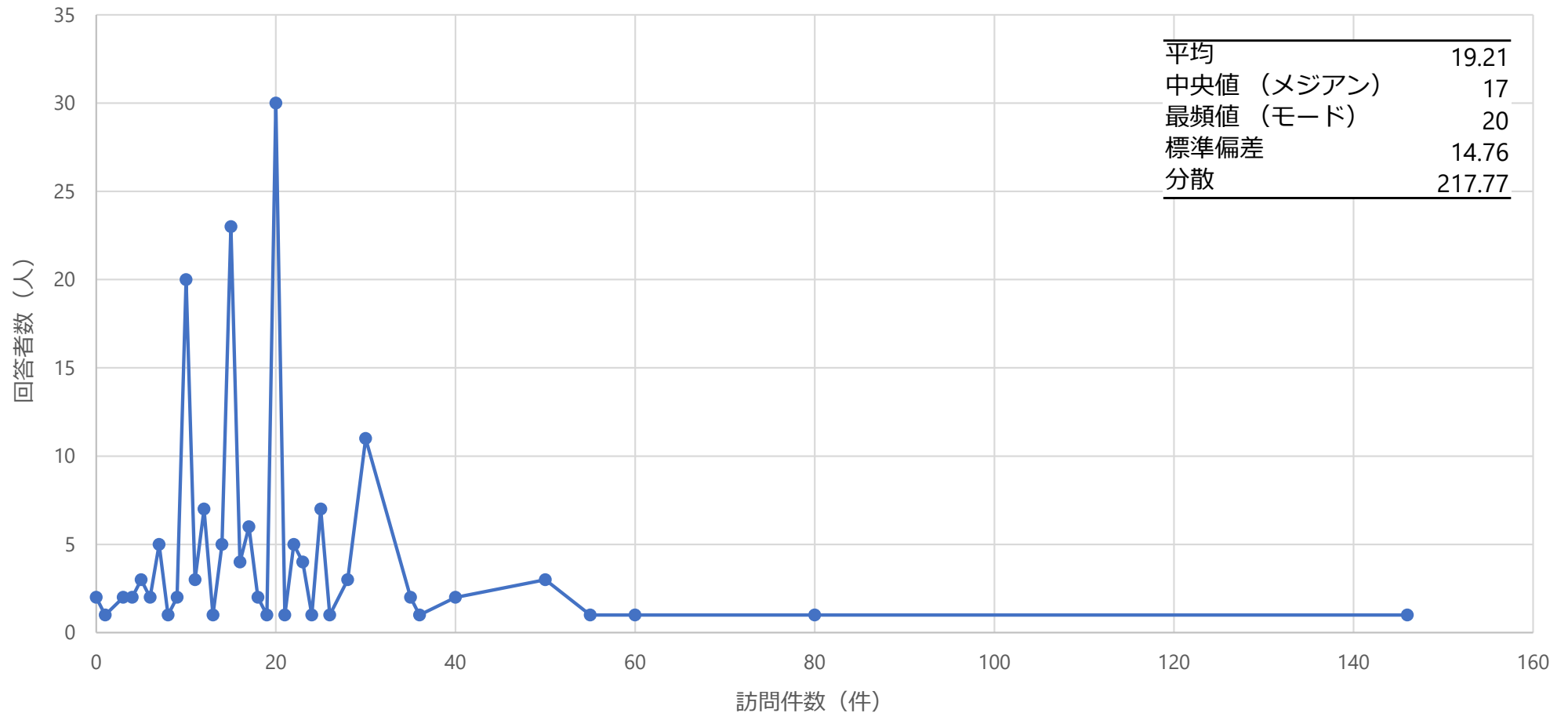
1-5.回答者の訪問看護事業所での経験年数

■ 1年未満 ■ 1年以上2年未満 ■ 2年以上3年未満 ■ 3年以上5年未満 ■ 5年以上10年未満 ■ 10年以上20年未満 ■ 20年以上



# 回答者の直近1週間の延べ訪問件数(N=167)

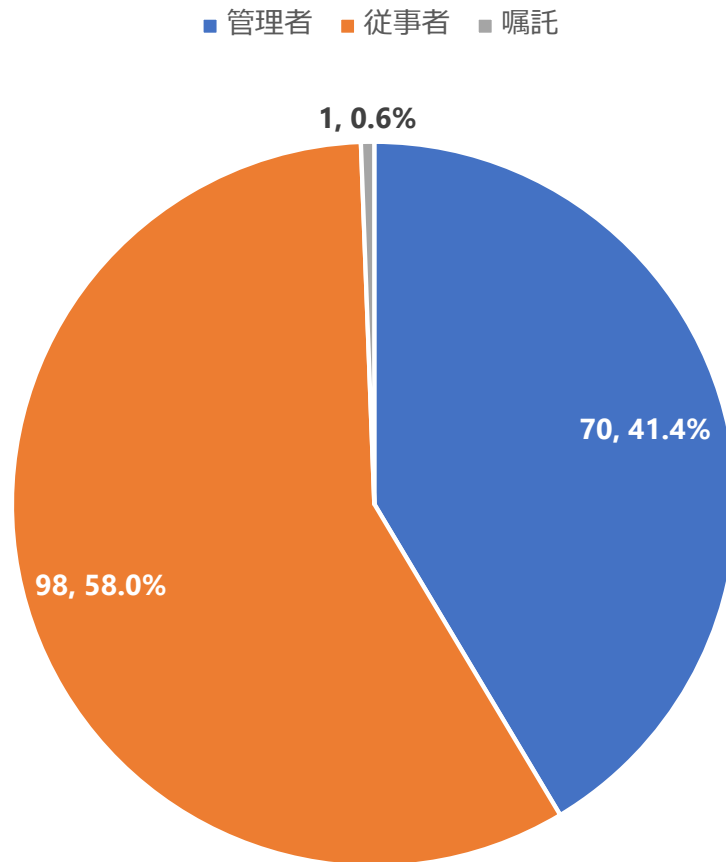
1-6.回答者の直近1週間の訪問件数



分析の精度を向上させるため、平均から大きく外れる数値を外れ値として除外した。

# 回答者の訪問看護事業所での雇用形態

1-7.回答者の訪問看護事業所での雇用形態



- 管理者

- 訪問看護事業所に1名以上在籍している必要がある。
- 管理を中心とした業務を担う。
- 看護職である必要がある。
- 対人支援を従事者と同様に実施する。利用者目線では管理者か従事者かの違いは分からない。

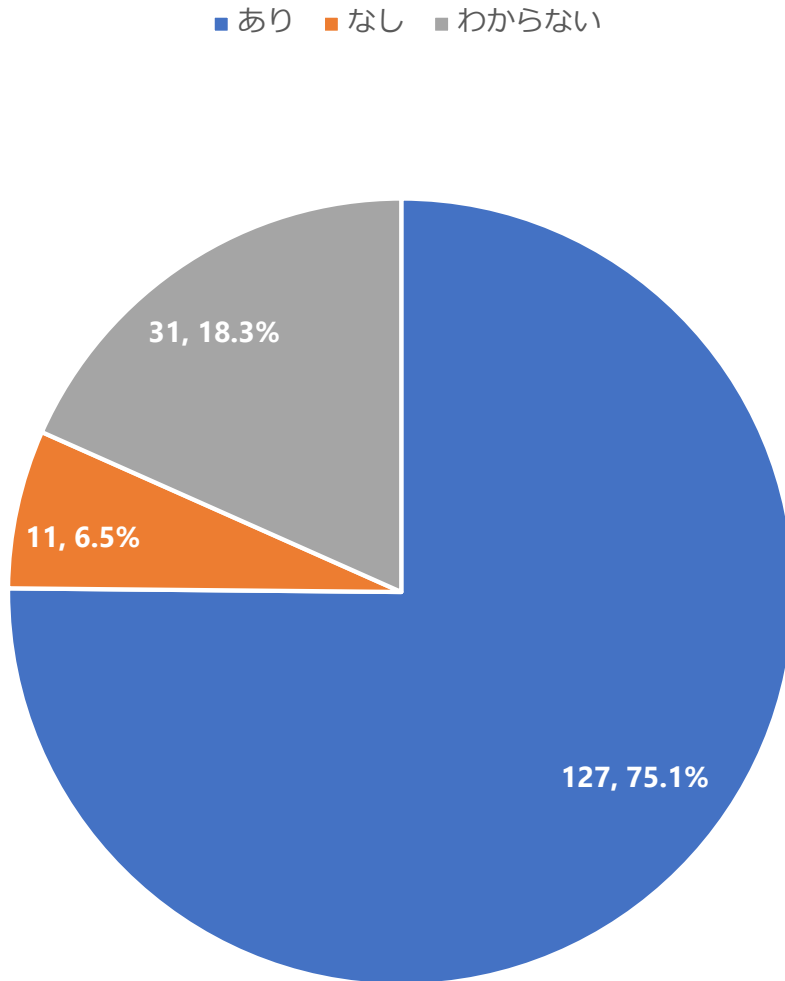
- 従事者

- 主に訪問業務に従事する。

嘱託職員は従事者に該当するため、分析時は従事者として扱う。

# 相談窓口の設置と認知

## 1-8.相談窓口の設置（相談できるところ）



## • 相談窓口の具体例

- 病院や訪問看護事業所が設けるハラスメント相談窓口
- 業界団体の相談窓口、行政の相談窓口（福島県労働困りごと窓口、厚労省の窓口）



# 回答内容

---

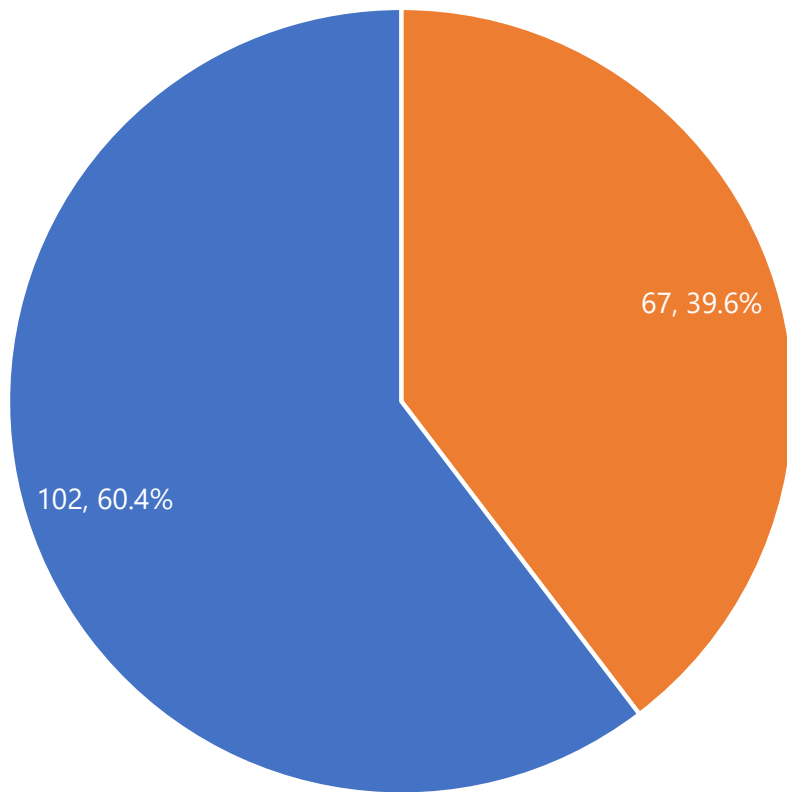
# 過去1年間の状況

---

# 過去 1 年間における利用者・家族からの暴力等

2-1.過去 1 年間における利用者・家族からの暴力等

■あり ■なし



- 過去 1 年間の訪問において、約 40%のスタッフが何らかの暴力を経験している。

# 過去1年間における利用者・家族等からの暴力等の内容

2-2.過去1年間における利用者・家族等からの暴力等の内容。該当するもの全てを選択してください。（複数回答）

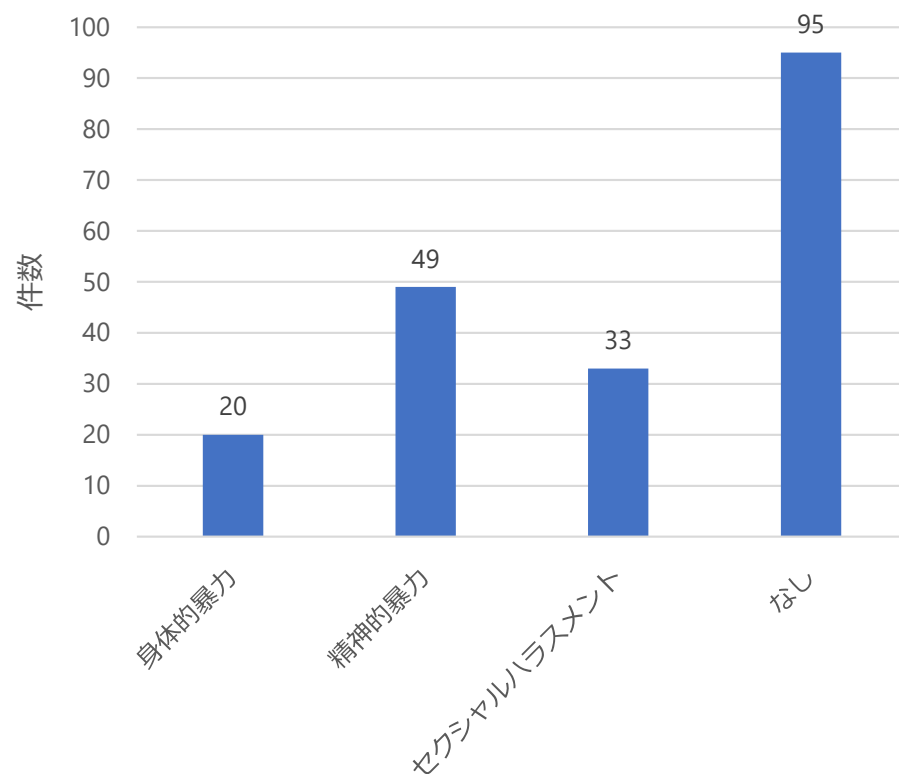


表2-1.過去1年の暴力経験回答割合

暴力の種類	割合
身体的暴力	19.6%
精神的暴力	48.0%
セクシャルハラスメント	32.4%

2-1.と「暴力を受けた経験がない」人数が異なる。調査値確認の結果、2-1.回答が妥当であると判断できるため、分析時の暴力経験有無の値には2-1.を採用する。

# 過去1年間において暴力等は誰から受けたか

2-3.過去1年間における暴力等は誰から受けましたか。該当するもの全てを選択してください。（複数回答）

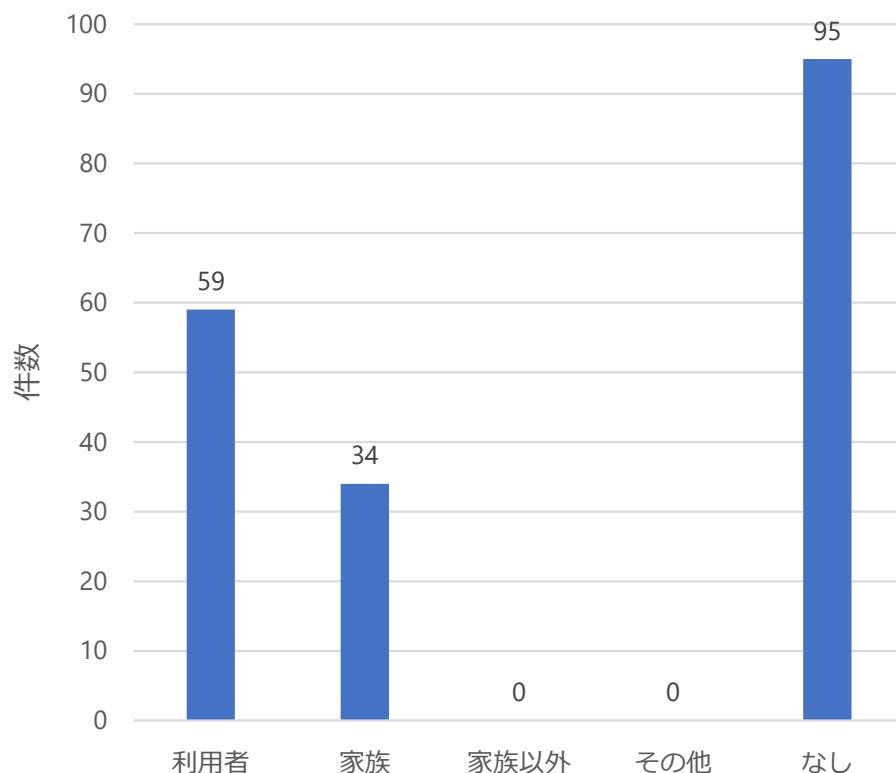


表2-2.過去1年の暴力経験回答割合

暴力の種類	割合
利用者	63.4%
家族	36.6%
家族以外	0%
その他	0%

2-1.と「暴力を受けた経験がない」人数が異なる。調査値確認の結果、2-1.回答が妥当であると判断できるため、分析時の暴力経験有無の値には2-1.を採用する。

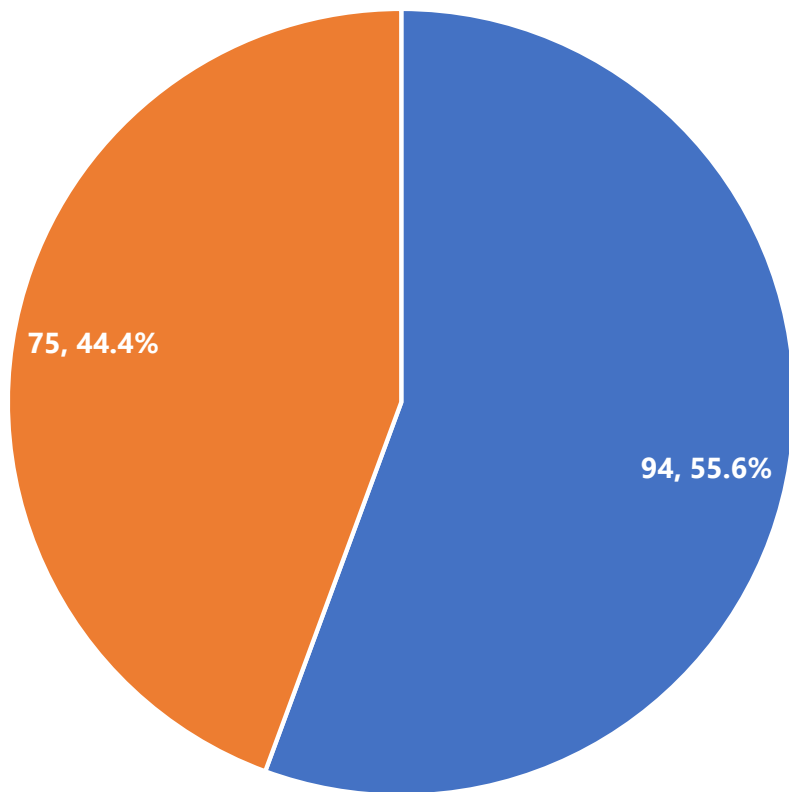
# 訪問看護に従事する全業務期間の状況

---

# 全業務期間における利用者・家族等からの暴力等

3-1.全業務期間における利用者・家族等からの暴力等

■あり ■なし



- 訪問看護業務に従事している約56%のスタッフが、何らかの暴力を経験している。

# 全業務期間における利用者・家族等からの暴力等の内容。

3-2.全業務期間における利用者・家族等からの暴力等の内容。該当するもの全てを選択してください。（複数回答）

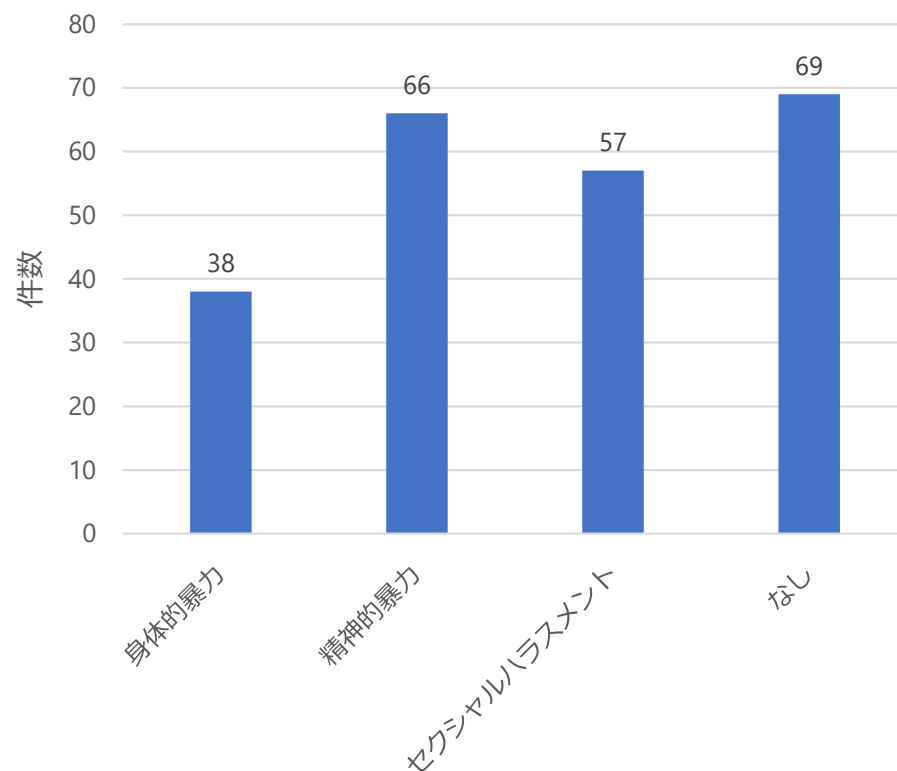


表3-1.全業務期間の暴力経験回答割合

暴力の種類	割合
身体的暴力	23.6%
精神的暴力	41.0%
セクシャルハラスメント	35.4%

3-1.と「暴力を受けた経験がない」人数が異なる。調査値確認の結果、3-1.回答が妥当であると判断できるため、分析時の暴力経験有無の値には2-1.を採用する。



# 全業務期間における暴力等は誰から受けたか

3-3.全業務期間における暴力等は誰から受けましたか。該当するもの全てを選択してください。（複数回答）

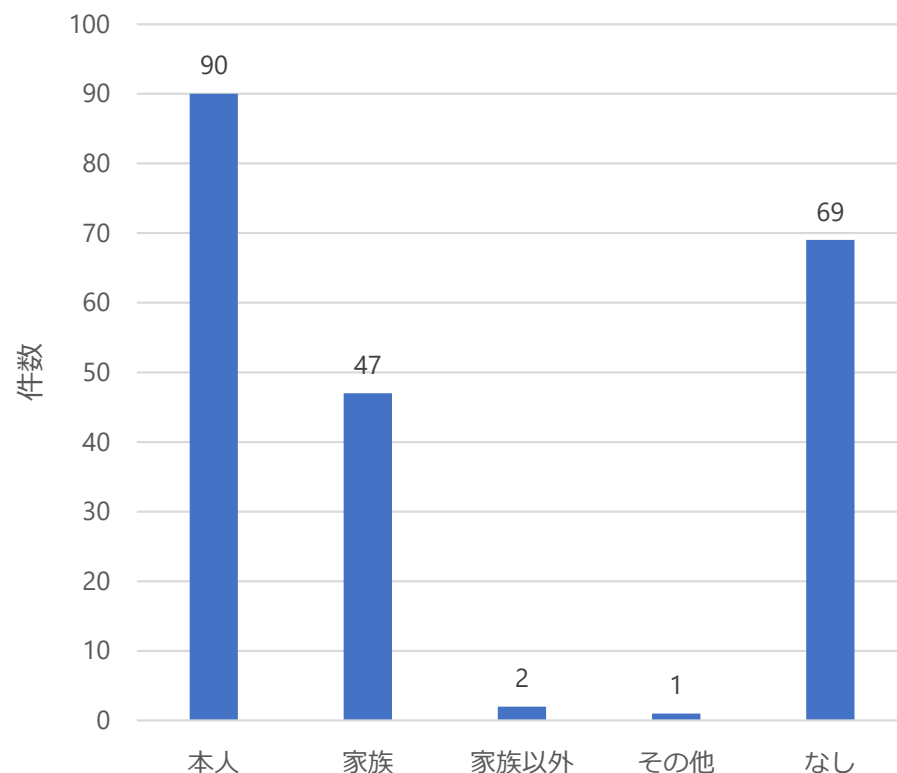


表2-2.過去1年の暴力経験回答割合

暴力の種類	割合
利用者	64.3%
家族	33.6%
家族以外	1.4%
その他	0.7%

- 「その他」の回答は以下の通り
  - 精神疾患のある方

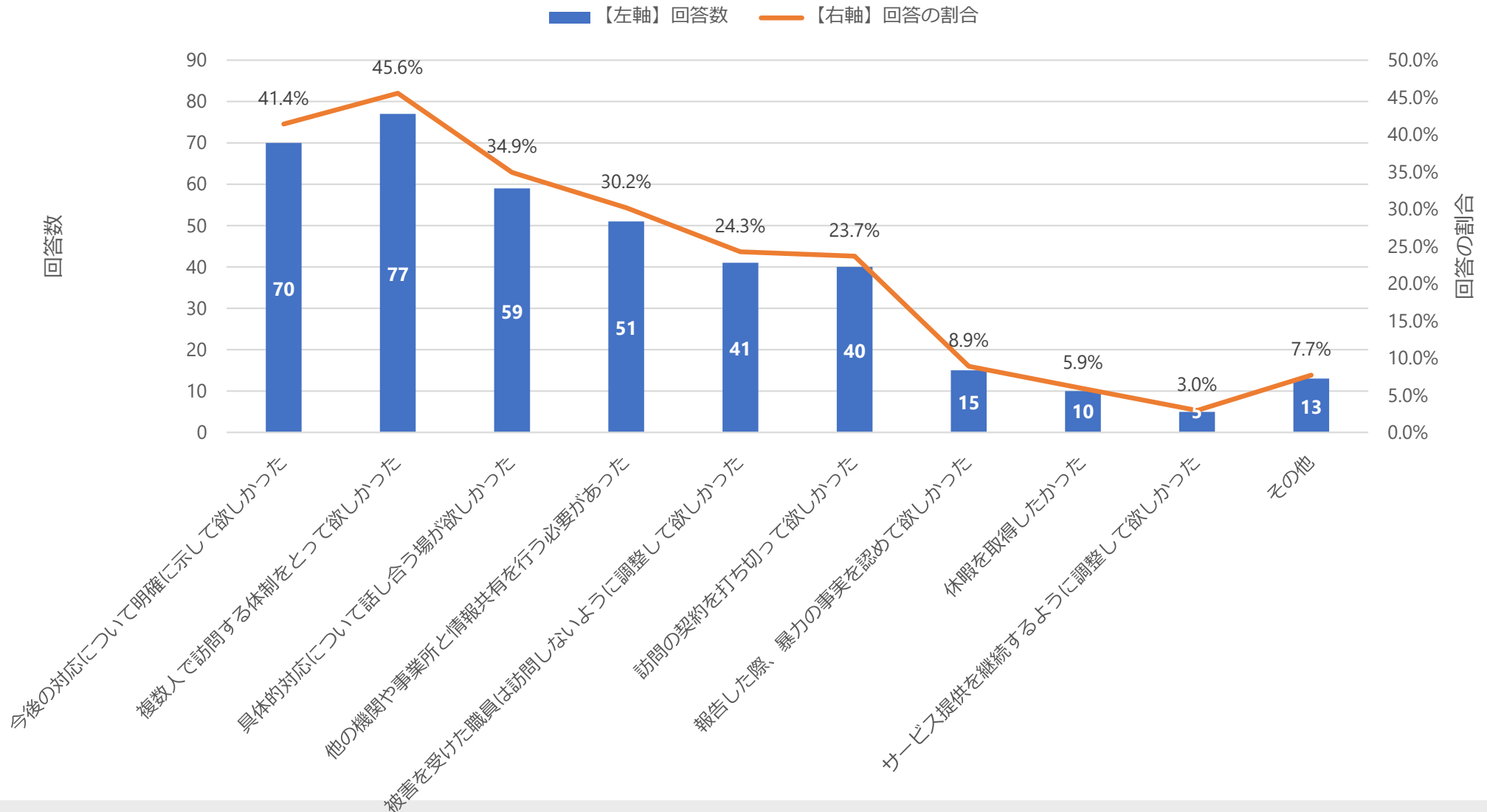
3-1.と「暴力を受けた経験がない」人数が異なる。調査値確認の結果、3-1.回答が妥当であると判断できるため、分析時の暴力経験有無の値には2-1.を採用する。

# 事業所に対する希望

---

# 事業所に希望する対応

4-1.事業所に希望する対応。該当するもの全てを選択してください（複数回答）



「その他」の中に「なし」と同意の回答があったが、これらは「その他」のカウントから除外している。

# 事業所に希望する対応

## 4-1.その他への回答

対応について話し合っただけだったので継続していきたい

ケアマネへも相談したが、複数人訪問の必要性が伝わらなかった

私達の年代は、スタッフの数が足りず 我慢してしまう。

現在は、暴力的なことはないが以前にありました。その後の対応は、内部でも話し、相談員とも話し中止にしています。

相談はしていない

管理者のため他機関などの相談窓口の設置

管理者がすでに対応した

上記対応済

私自身は経験がありませんが該当すれば上記は希望すると思います

ケアマネ登録も含めて、家族と話し合いを持ち対応済み対応済

認知症なので、仕方ないと思う

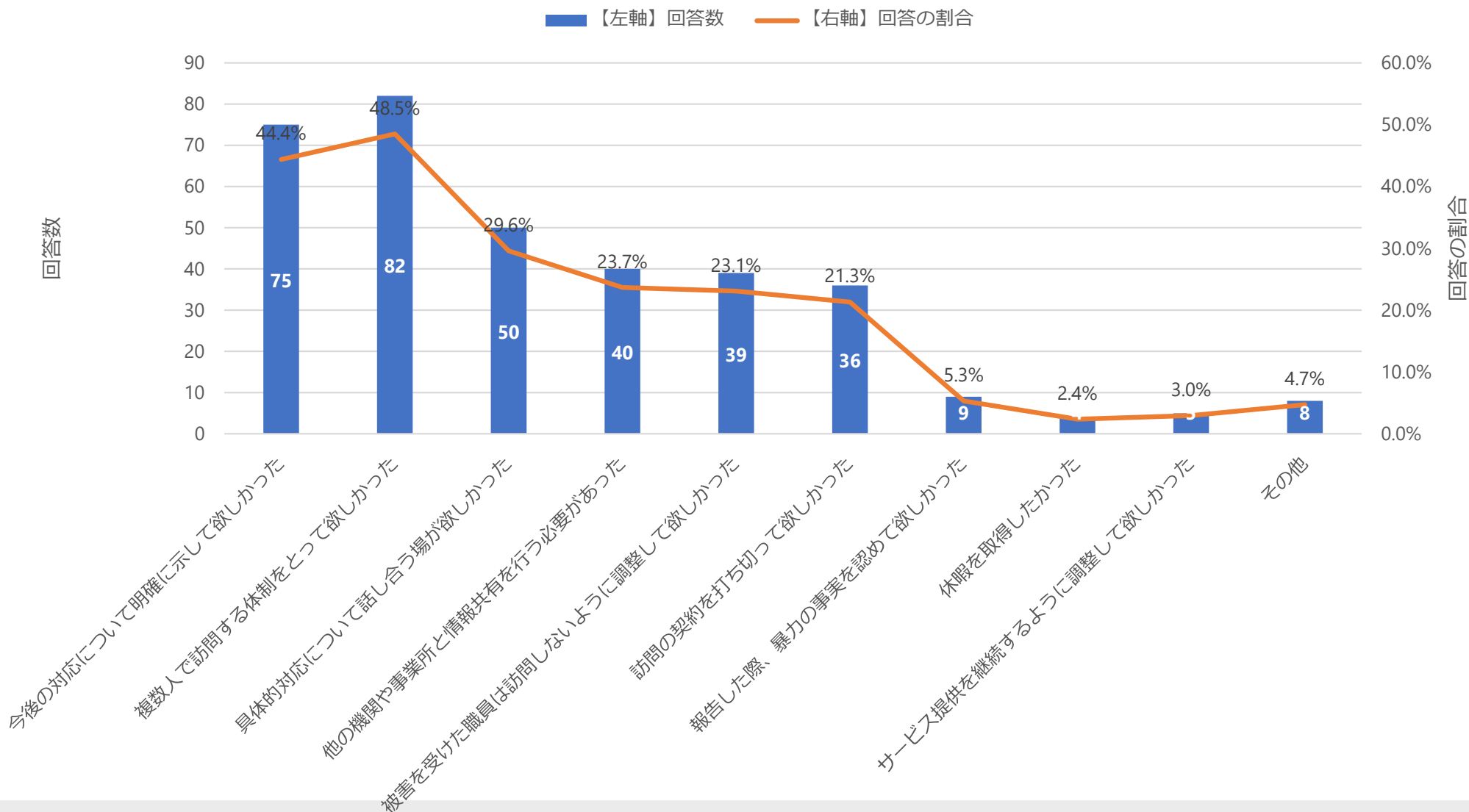
上記の対応をおこなった

その都度相談できる環境にある

「その他」の中に「なし」と同意の回答があったが、これらは「その他」のカウントから除外している。

# 事業所に希望する対応（上位3つ）

4-2.事業所に希望する対応について最も希望する対応を3つまで選択してください。



「その他」の中に「なし」と同意の回答があったが、これらは「その他」のカウントから除外している。

# 事業所に希望する対応（上位3つ）

## 4-2. その他への回答

即、管理者として対応しています。主治医、相談員、行政と相談しています

相談していない

第3者機関の相談窓口の明確化

ハラスメントを受けていないのでわからない

きちんと相談できる環境があること

どれがいいのかわからない

上記対応をおこなった

その都度相談できる環境にある

「その他」の中に「なし」と同意の回答があったが、これらは「その他」のカウントから除外している。

# 利用者・家族等から暴力を受けた後の影響

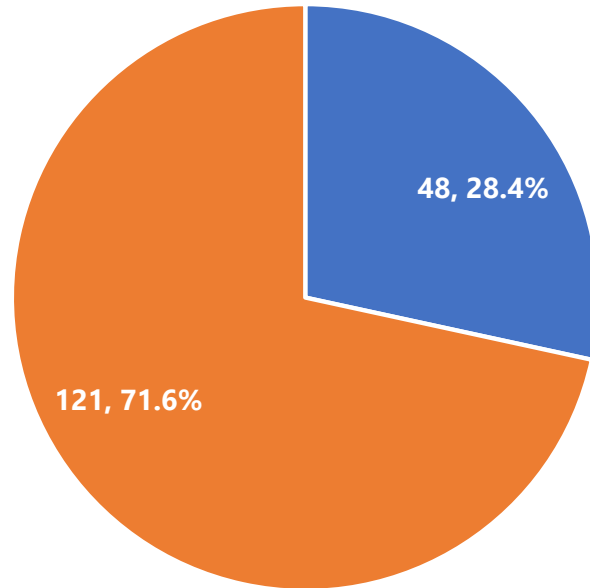
---

# 利用者・家族等から暴力を受けたことで何らかの影響があった

全回答者

5-1.利用者・家族等からの暴力を受けた影響

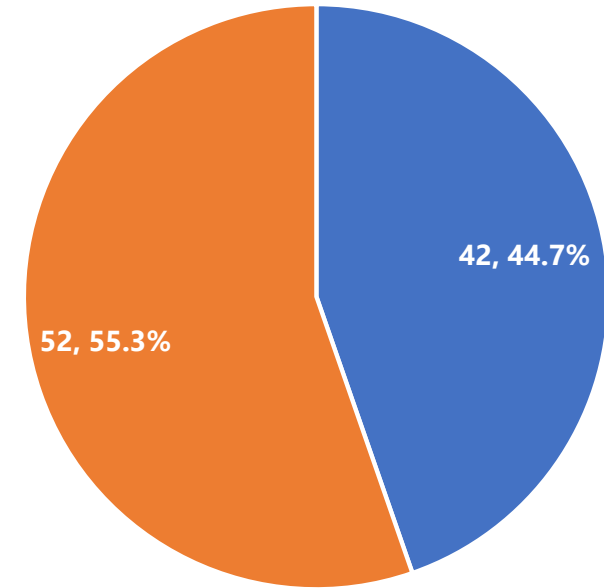
■あり ■なし



「3-1.全業務期間における利用者・家族等からの暴力を受けた」を「ある」とした回答者

5-1-1.利用者・家族などから暴力を受けた影響(N=94)

■あり ■なし



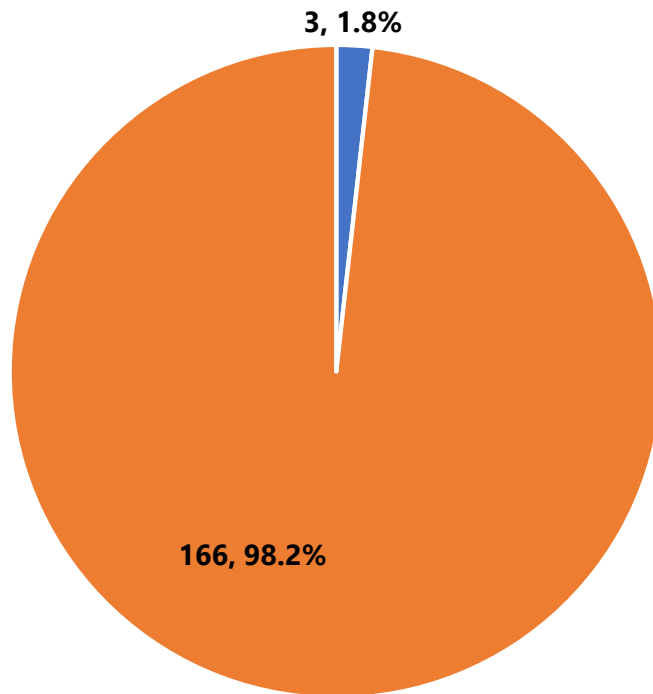


# 仕事を休んだ

全回答者

5-2.仕事を休んだ

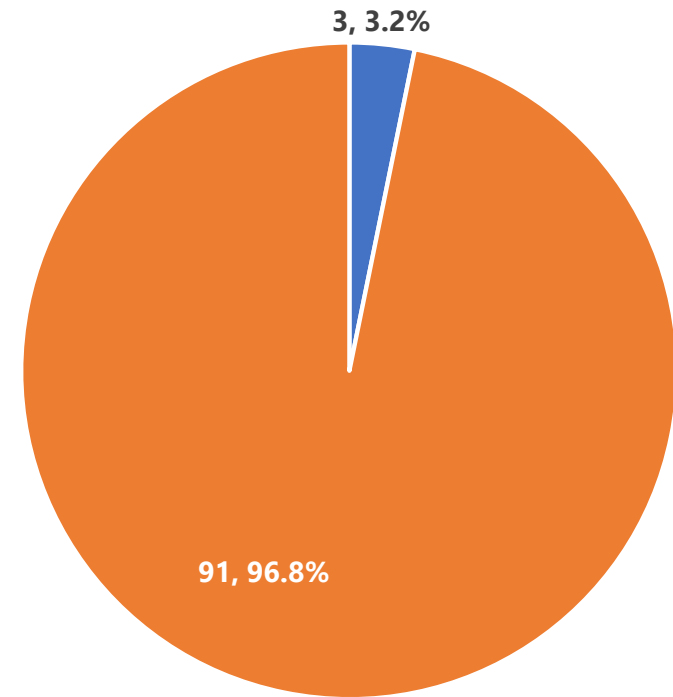
■ はい ■ いいえ



「3-1.全業務期間における利用者・家族等からの暴力等を受けた」を「ある」とした回答者

5-2-1.仕事を休んだ(N=94)

■ はい ■ いいえ

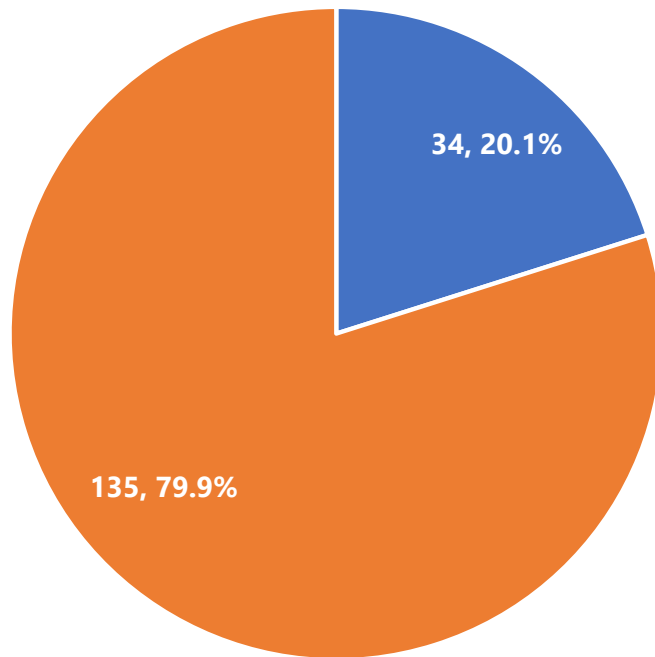


# その利用者の訪問業務を離れた

全回答者

5-3.その利用者の訪問業務を離れた

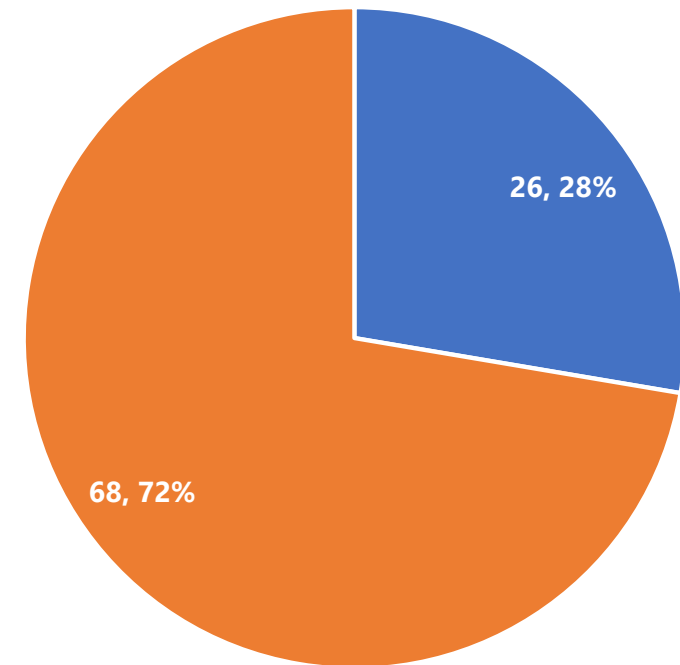
■ はい ■ いいえ



「3-1.全業務期間における利用者・家族等からの暴力等を受けた」を「ある」とした回答者

5-3-1.その利用者の訪問業務を離れた (N=94)

■ はい ■ いいえ

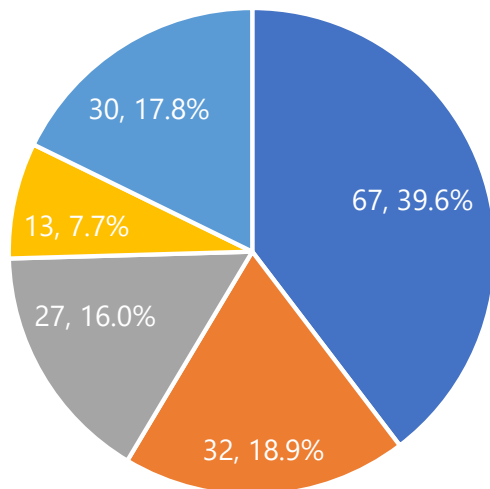


# 訪問に行きたくないと思った

全回答者

## 5-4.訪問に行きたくないと思った

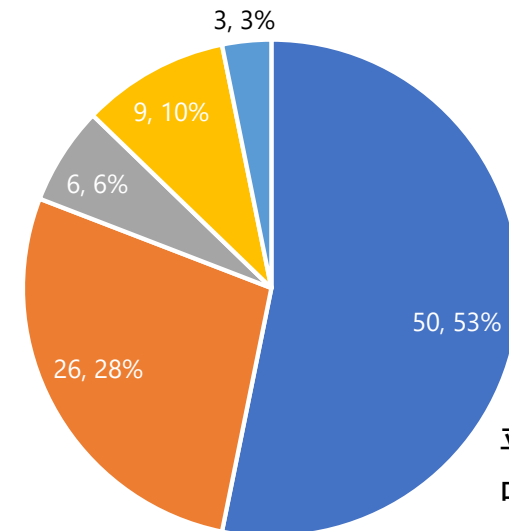
- とても思った
- 少し思った
- どちらでもない
- あまり思わなかった
- 全く思わなかった



「3-1.全業務期間における利用者・家族等からの暴力等を受けた」を「ある」とした回答者

## 5-4-1.訪問に行きたくないと思った (N=94)

- とても思った
- 少し思った
- どちらでもない
- あまり思わなかった
- 全く思わなかった



平均値 : 4.18  
中央値 : 5

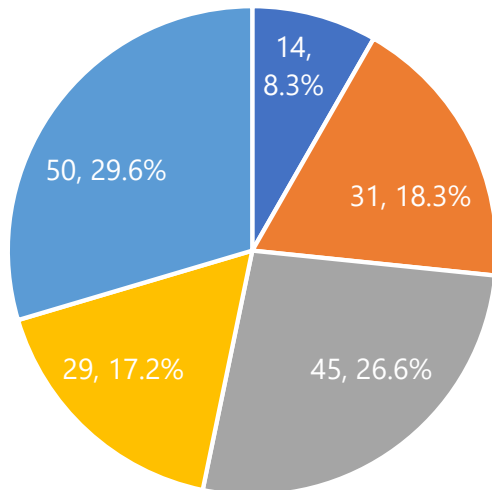
平均値等は「とても思った」を5、「少し思った」を4、「どちらでもない」を3、「あまり思わなかった」を2、「全く思わなかった」を1として算出。

# 仕事を辞めたいと思った

全回答者

## 5-5.仕事を辞めたいと思った

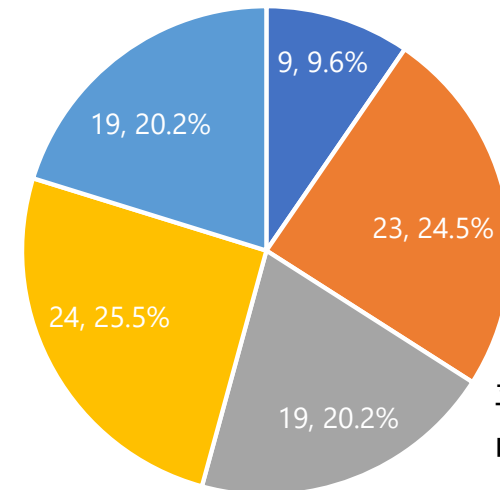
- とても思った
- 少し思った
- どちらでもない
- あまり思わなかった
- 全く思わなかった



「3-1.全業務期間における利用者・家族等からの暴力等を受けた」を「ある」とした回答者

## 5-5-1.仕事を辞めたいと思った(N=94)

- とても思った
- 少し思った
- どちらでもない
- あまり思わなかった
- 全く思わなかった



平均値 : 2.77  
中央値 : 3

平均値等は「とても思った」を5、「少し思った」を4、「どちらでもない」を3、「あまり思わなかった」を2、「全く思わなかった」を1として算出。

# 自由記述

認知症の方の場合、本人がケアを嫌がっている場合に暴力を受けることもあり、そういう時には複数で訪問できるとありがたいと思う。セクハラ的な言動によるハラスメントは、高齢者だと気づいていないことが多いのでどう伝えていけば良いか悩むことは多い。

薬物や、性的なものは幸いありませんでしたが、私達の年代は我慢してしまう傾向にあります 利用者様が認知症なら尚更です。ただでさえスタッフの数が足りず疲弊している所に行きたくない等とは言えない状況ですし、とは言え今この場で清潔ケアを早く終わらせないと、、、とってしまうと思ってしまうます。

市や、県レベルで ハラスメントの種類や程度の把握をし、対応にマニュアルや、その周知、その研修などがもっと必要だと、自分さえ我慢すれば...みたいな考えにならぬよう 利用者様、ご家族様にもご理解頂けるよう契約時にきちんと伝えて行かなくてはと思います

暴力を受けていないので質問4、質問5は答えられません。

高齢者の男性の入浴介助場面で何度も性的対象に見られたり、握手として何度も手を触られることが多い。高齢者だとサービス中止と伝えるにくい

まだ経験したことがなく分かりませんが、安全に訪問してケアできるような体制を整えたいと思う

当事者後の対応を即、管理者がその後の対応をしています。

痛みについてうまく表現できず、疼痛コントロールがうまくいかない事による苛立ちがあったと思う。理解しているつもりだが、夜間の臨時訪問で1人で訪問しなければならないとなると正直怖さもありました。

5は該当しないため自分の回答はできませんでした。

精神疾患が特に怖い

患者家族の過度な要求に応え続ける必要性はあるのかと思うことがあります。希望とわがままの境目が難しいです。疾患のせいで暴力を振るってしまう方もいますが、病気だから仕方ないで片付けてしまうのは違う気もしてしまいます。

男の人は力が強かったり、女の人を見下したりするので精神的にやられることが多い。そのような人の訪問はすぐに打ち切ってほしい。

# 自由記述

事業所の管理者は即対応してくれた。いろいろ言われたことの内容の理不尽さは十分伝わったかはわからなかったが、訪問を外して貰えたので救われた。他の同僚や他職種への同様な言動があって訪問の契約を切って欲しい思いもあった。そのことを相手にも伝えて契約は継続された。もう一例は、利用者の息子さんは訪問看護を試すような言動が多く、批判的で、一緒に在宅を支えていく協力関係はないと感じた。今日はお嫁さんだといいな、と思いながら訪問していた。

経験していないのでわからない

ハラスメントを受けた事がないので、私は調査対象から外れるかと思われます。利用者側がハラスメントをした意識がなくとも、看護師側がハラスメント（暴言、相手を否定的する言動）と感じる場面はあるように感じます。

自分が反省しなければならない事も多くあった。皆で話し合いを持ちながらスタッフが辛くならないようにしなければならないと思っています。思っていることが言いやすい環境を作っていきたい。

5の問いは該当しないため全ていいえで返答しています

暴力を受ける前から、その利用者宅に訪問する時は、数日前から憂鬱な気持ちはあった。しかし、当日は頑張って訪問をしていた。訪問中に、顎で、私を指された時は、全てが嫌になった。その頃から、訪問の仕事に対する意欲が少しずつなくなっている。

小規模事業所では複数名の訪問やスタッフを替えての訪問が難しい状況もある。交替を望んでいても言い出せない、遠慮してしまう場合が多い。自分の対応が悪かったのかと責めてしまうことも多いので、病棟勤務時より悩みが多いと感じている。

ご本人が認知の場合には仕方ない事もあります。

4、5の質問を回答必須にするのはおかしいと思います。利用者等から暴力を受けたことがない人はどれを選ぶべきだったのでしょうか？どれも当てはまらないので回答に悩みました。

関係構築により、ハラスメントは軽減した

事業所には、訪問時二人体制にしてもらった。訪問回数を減らしてもらった。また、他のスタッフも同じように経験しているので、みんなです話し合い、情報共有することで気持ちの整理をしながら訪問を続けられている。

# 分析と考察

---

# 経験年数・年齢・性別による暴力の経験差異

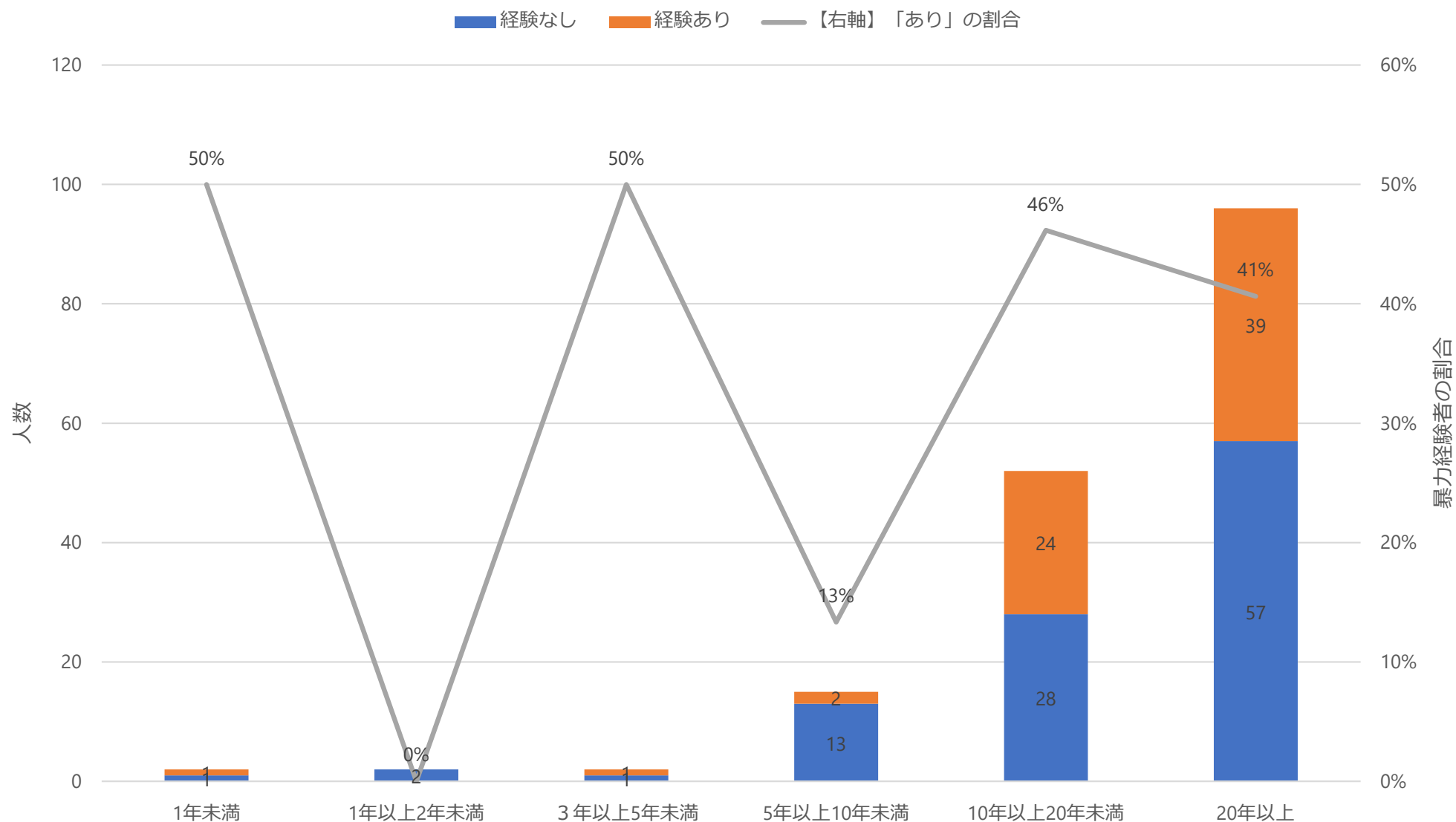
- 目的

- 回答者の属性（専門職としての経験年数、年齢、性別）に基づき、暴力の経験に差異があるかどうかを分析する。これにより、特にリスクの高いグループや保護すべき職員を特定する。



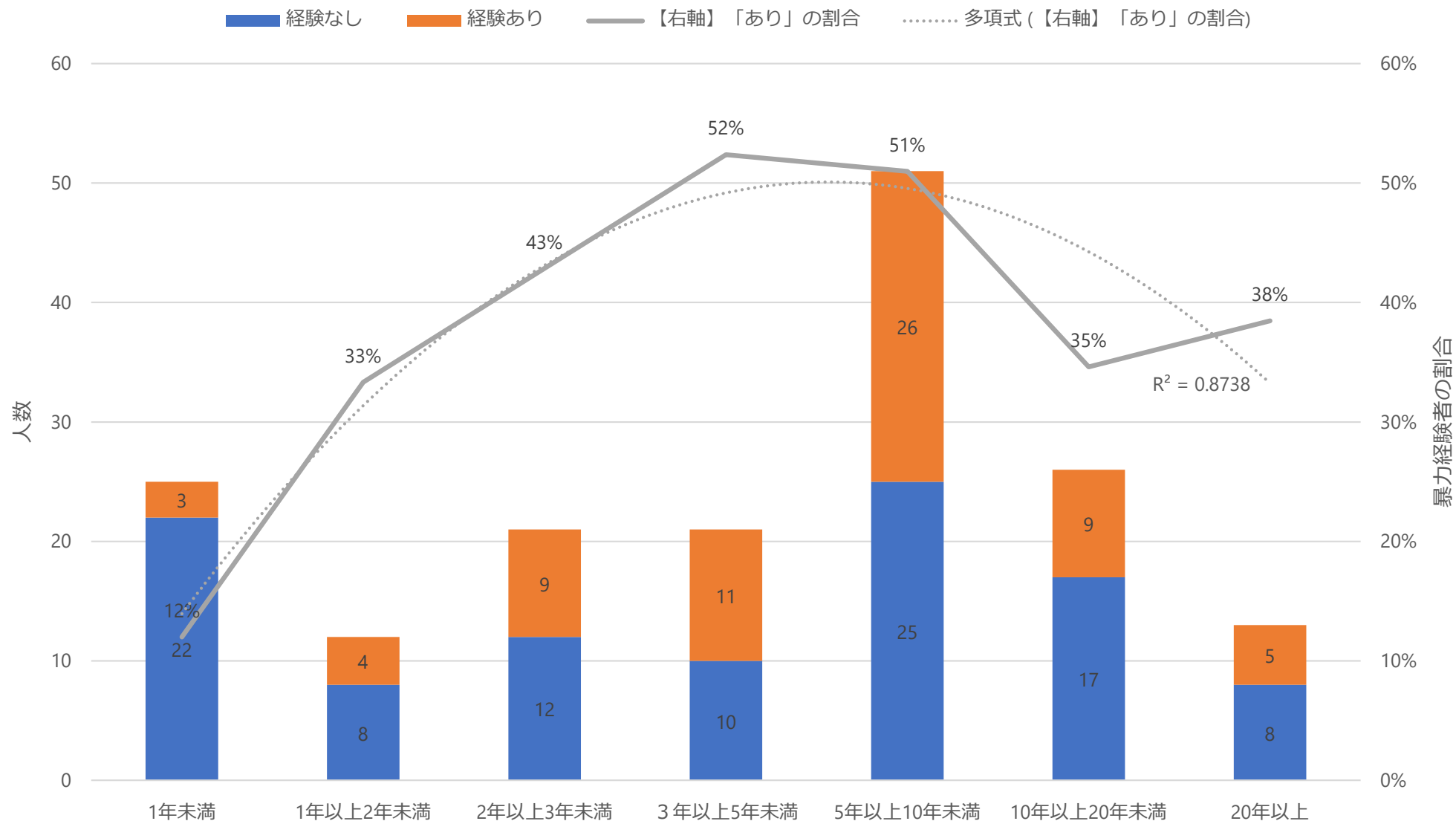
# 経験年数・年齢・性別による暴力の経験差異

6-1. 専門職としての経験年数に対する、過去1年間の暴力経験人数



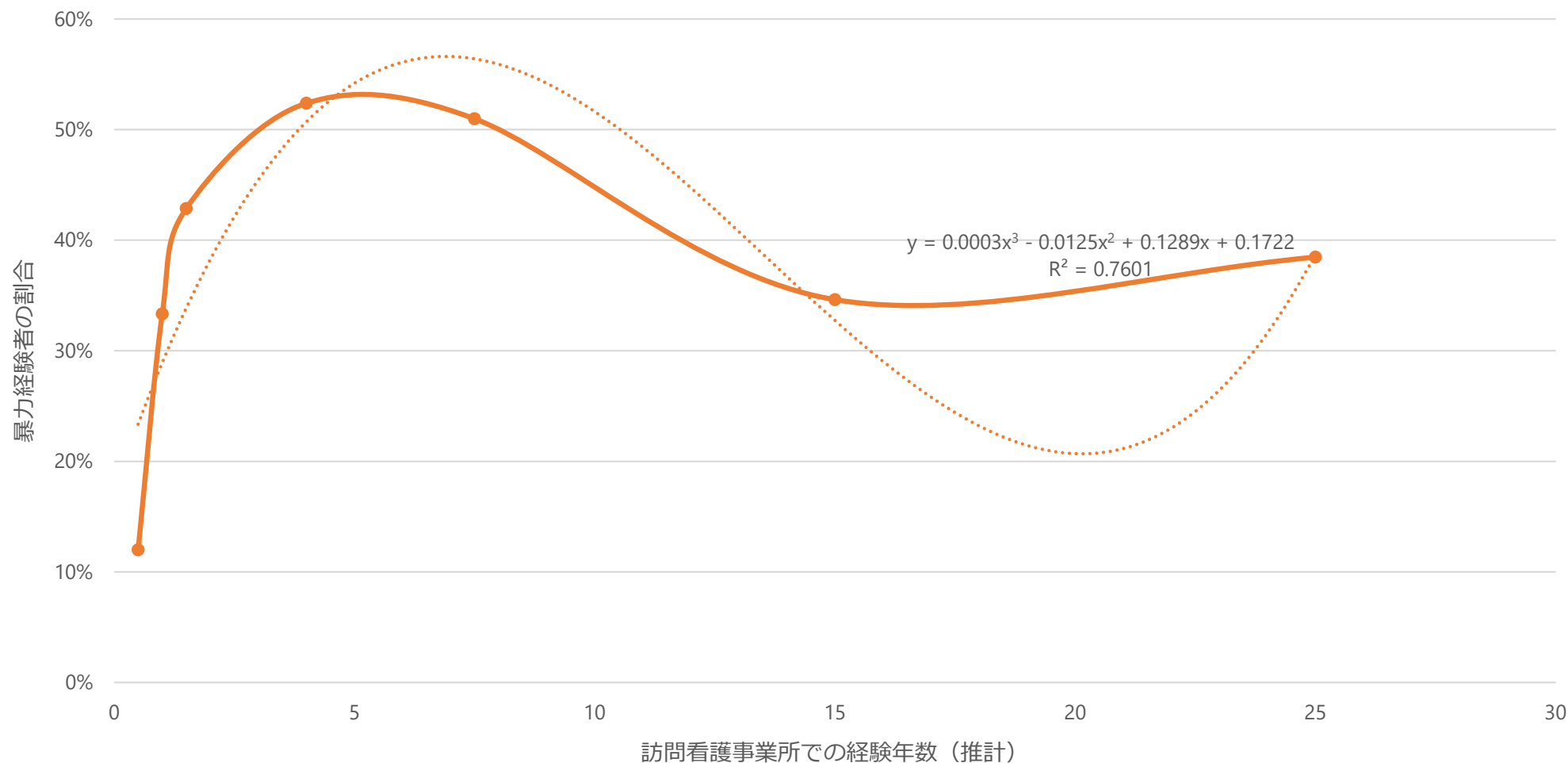
# 経験年数・年齢・性別による暴力の経験差異

6-2.訪問看護事業所での経験年数に対する、過去1年間の暴力経験



# 【参考】訪問看護事業所での経験年数の中間を代表値とした場合

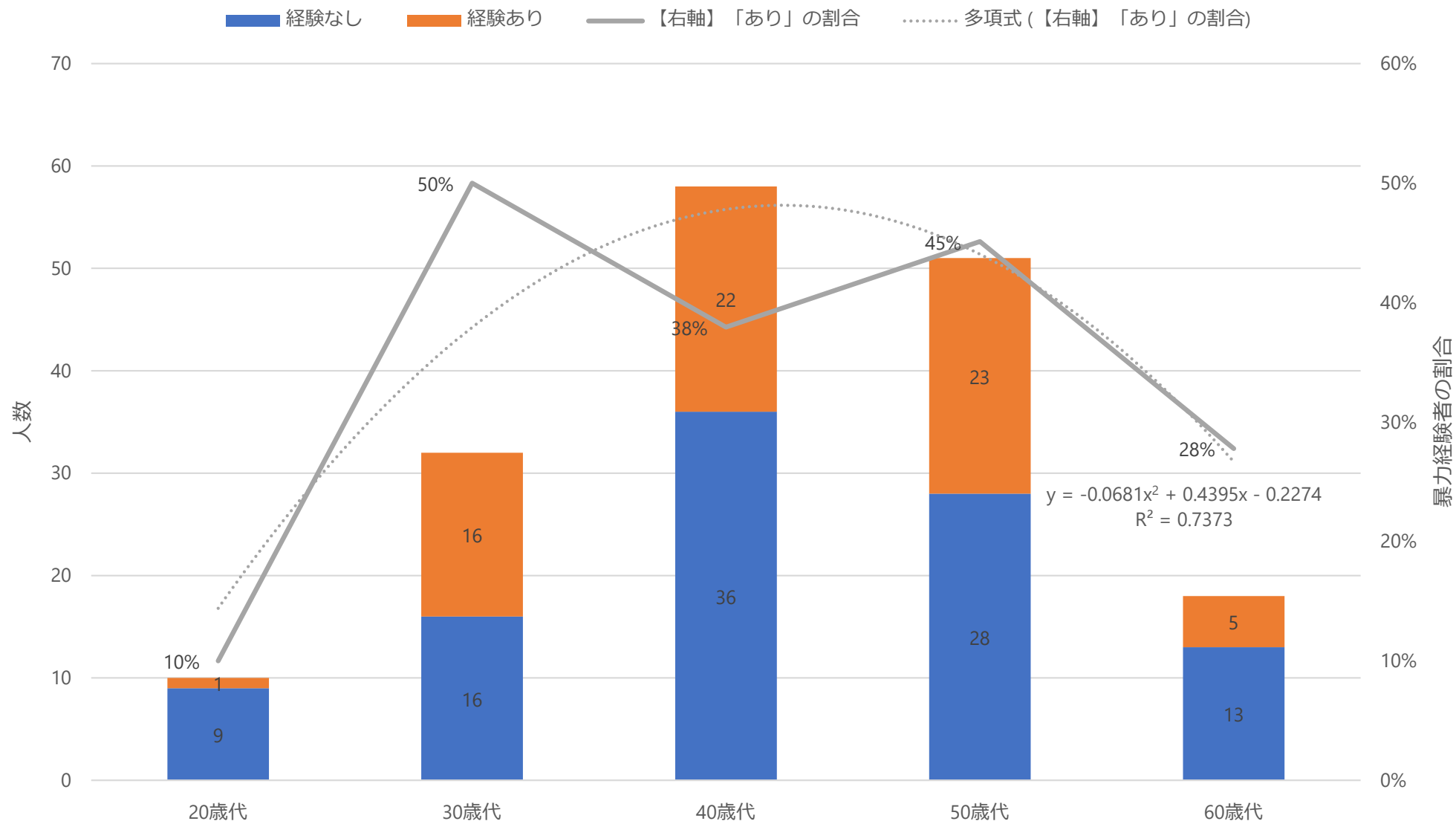
## 6-3.訪問看護事業所での経験年数に対する、過去1年間の暴力経験



x軸は各経験年数カテゴリーの中間値を用い、0.5年、1年、1.5年、4年、7.5年、15年、25年として表した。

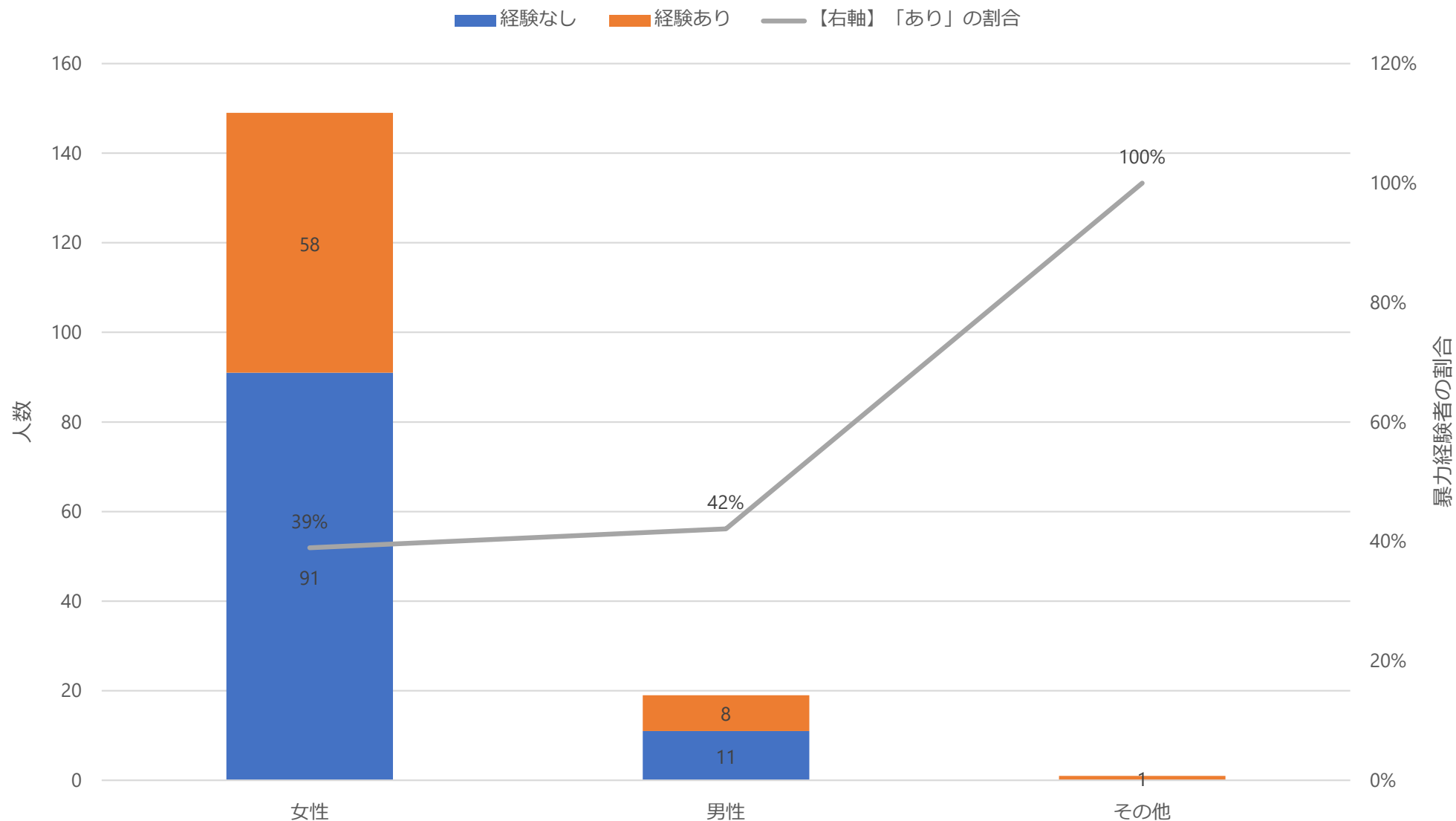
# 経験年数・年齢・性別による暴力の経験差異

## 6-4.年齢に対する、過去1年間の暴力経験



# 経験年数・年齢・性別による暴力の経験差異

6-5.性別ごとの、過去1年間の暴力経験



# 経験年数・年齢・性別による暴力の経験差異

- 解説

- 専門職としての経験年数と直近1年の暴力経験には、関係性を見出すことはできなかった。
- 訪問看護経験年数と直近1年の暴力経験を見ると、経験機関とともに経験比率が上昇し、3～10年未満でピークを迎えた。それ以降は低下し、安定する傾向が見られた。
- 年齢に対する直近1年の暴力経験を見ると、30～50代でピークを迎え、その前後の年齢における経験割合は低くなっていた。
- 性別に対する直近1年の暴力件数には、大きな差異を見出すことができなかった。

表6-1.属性別、ここ1年における暴力経験のマトリクス

専門職としての経験年数	1年未満	1年以上2年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	
訪問看護事業所での経験年数	1年未満	1年以上2年未満	2年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上
年齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代		
性別	女性	男性	その他				

# 暴力の種類と発生源の関連性分析

- 目的

- 暴力の種類ごとに、どの発生源（利用者、家族、その他）からの暴力が多いかを分析します。この分析により、特定の種類の暴力に対する対策や予防策の策定に寄与することを期待する。

- 結果

表6-2.訪問看護に従事している全業務期間における、暴力内容と対象者のクロス集計

	身体的暴力	精神的暴力	セクシャルハラスメント	合計
本人	38	58	54	150(63%)
家族	14	40	31	85(36%)
家族以外	0	2	1	3(1%)
合計	52(22%)	100(42%)	86(36%)	238

# 暴力の種類と発生源の関連性分析

- 解説

1. 表6-2に対して $\chi^2$ 乗検定を実施したところ、P値は0.41となった。よって、暴力者と暴力の種類間に統計的有意性は見られなかった。
2. 最も多い暴力の種類：精神的暴力が100件で最も多く、身体的暴力（52件）、セクシャルハラスメント（86件）の順となっている。精神的暴力が全体の暴力事件の中で最も多い。
3. 発生源別の暴力の分布：本人からの暴力が最も多く、150件で全体の約63%を占める。次いで家族が85件で約36%、家族以外からの暴力が最も少なく3件。これは、訪問看護の現場では主に利用者本人と家族が暴力の主な発生源であることを示している。
4. 暴力の種類ごとの発生源の傾向
  - 身体的暴力：本人からの暴力が38件と最も多く、次いで家族から14件である。
  - 精神的暴力：こちらも本人からの発生が58件と最も多く、家族からは40件となっており、他の種類の暴力に比べて家族からの発生率が相対的に高いことがわかる。
  - セクシャルハラスメント：本人からの発生が54件と最も多く、家族からの発生も31件となっている。
5. 対策の考察：
  - 精神的暴力の対策には、特に家族が関与しているケースが多いため、家族への支援や教育プログラムの強化等が考えられる。
  - 身体的暴力とセクシャルハラスメントについては、本人からの発生が多いため、利用者本人への適切な対応策や、看護スタッフのための安全対策の構築が求められる。



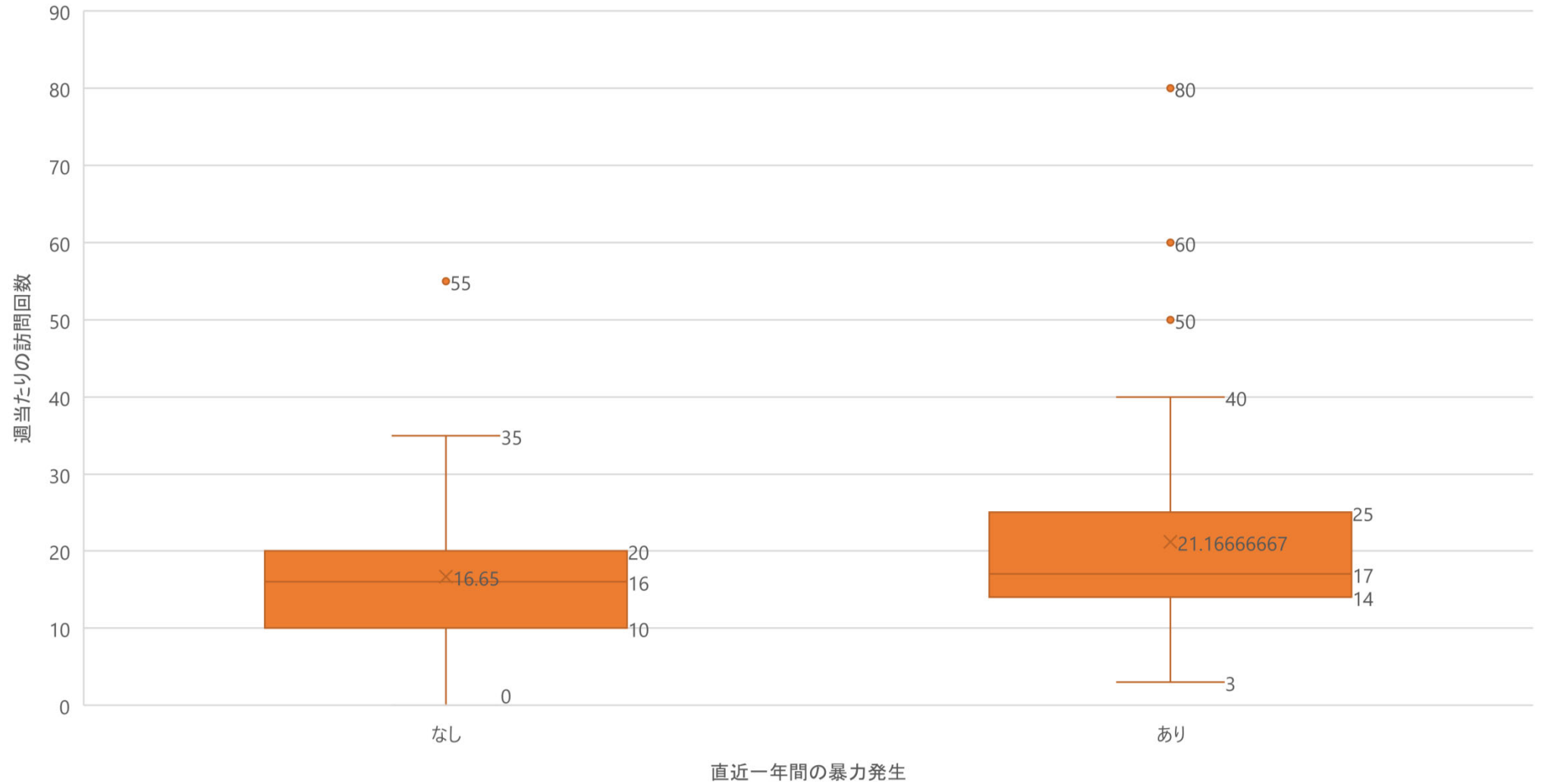
# 週当たりの訪問回数に対する暴力の発生度合い

- 目的

- 訪問の頻度を調整することによるスタッフのスケジューリングの最適化、介護の質の向上、訪問看護スタッフのトレーニングプログラムの改善、そして暴力事象の減少に繋がる介護プロトコルの開発などお対策が望めます。訪問看護サービス提供における最良の実践を特定し、暴力のリスクを軽減し、患者と看護スタッフの両方にとってより安全な環境を確保するための対策を講じることができます。

# 週当たりの訪問回数に対する暴力の発生度合い

6-6.週当たりの訪問回数に対する、直近一年間の暴力発生の度合い



訪問回数140回以上のデータは、入力誤りとして省いた。

# 週当たりの訪問回数に対する暴力の発生度合い

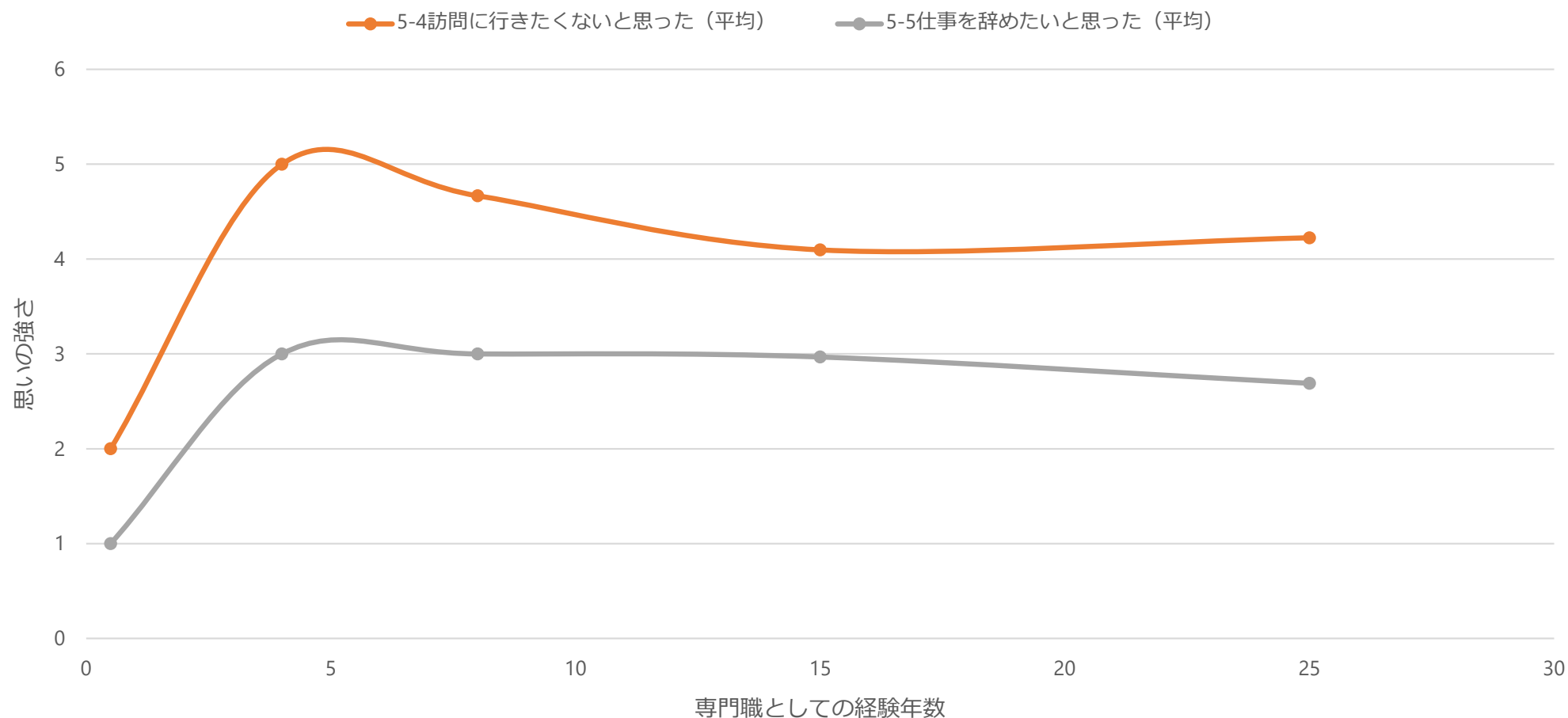
- 解説
  - 暴力が報告されたケース（「あり」）は、暴力が報告されなかったケース（「なし」）よりも訪問回数の平均値・中央値・Q1ともに高い。これは、暴力が報告されたケースでは訪問回数が多かったことを意味しており、頻繁な訪問が暴力の発生に関連している可能性がある。
  - 「あり」カテゴリのデータの広がり（分散）は「なし」に比べて大きく、訪問回数により大きなバリエーションが存在することを示唆している。
  - 「あり」カテゴリで外れ値が観察されている。これは、特定のケースで非常に高い訪問回数が報告されていることを意味し、特定の状況下で暴力のリスクが特に高まる可能性を示している。
  - この結果から考えられる対策は以下の通り
    - 頻繁な訪問に関連するリスクの管理
    - 個別ケースの分析：訪問回数が異常に多い外れ値ケースを特定し、それらの背景にある要因を分析。
    - 追加リスク要因の特定：暴力が報告されたケースでの訪問回数のバリエーションが大きいことから、訪問回数以外のリスク要因（例えば、時間帯や利用者の状態、地域の特性など）を同定し、より詳細なリスク評価と介入プランを策定する。

# 暴力経験による訪問看護師の仕事への影響分析

- 目的
  - 暴力を受けたことによる仕事の意欲低下、訪問意欲の低下、辞職の思いが経験年数によりその影響度が異なるかを分析する。この分析から、暴力へのフォローがどの世代に特に必要なのかを明らかにする。
- 対象
  - 「3-1.全業務期間における利用者・家族等からの暴力等を受けた」を「ある」とした回答者

# 暴力経験による訪問看護師の仕事への影響分析

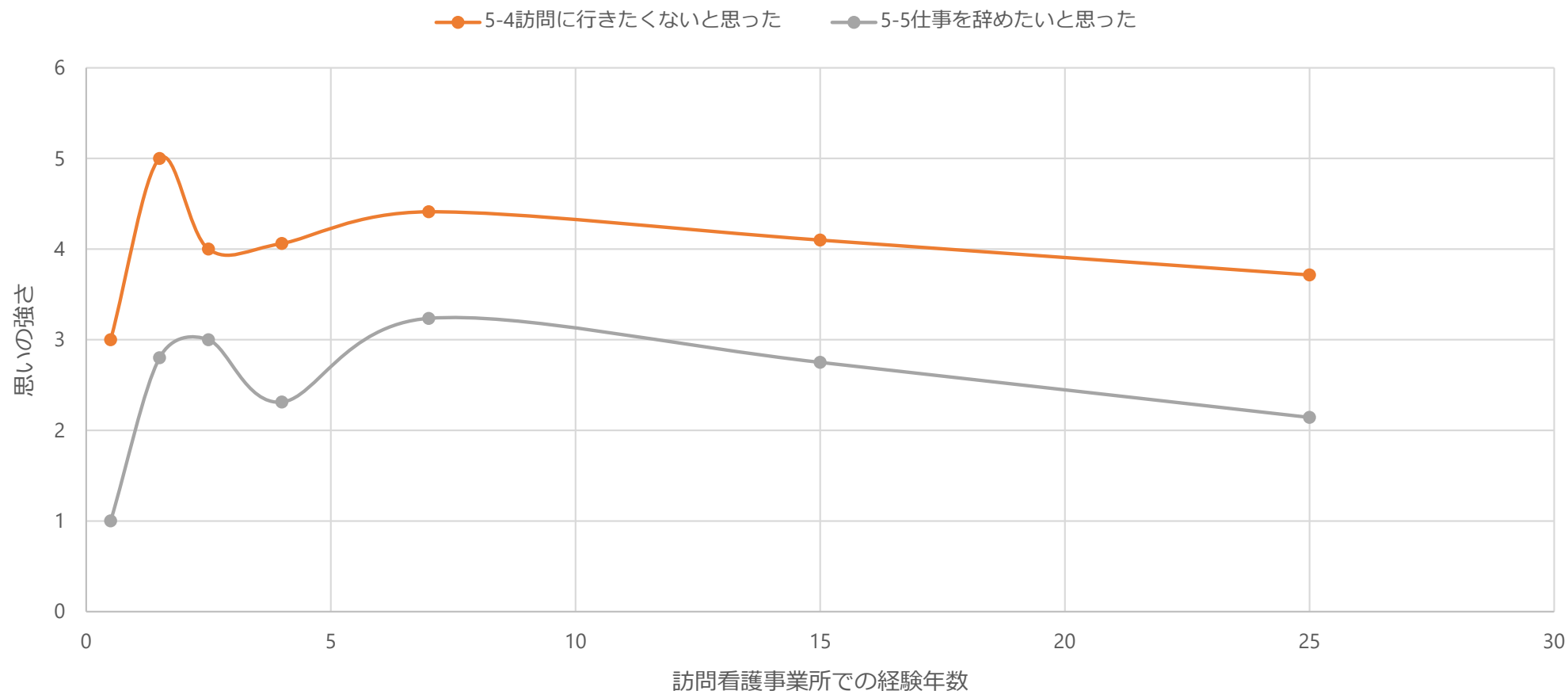
6-7. 専門職としての経験年数に対する、暴力後の影響(N=94)



x軸は各経験年数カテゴリーの中間値を用い、0.5年、1年、1.5年、4年、7.5年、15年、25年として表した。思いの強さは「とても思った」を5、「少し思った」を4、「どちらでもない」を3、「あまり思わなかった」を2、「全く思わなかった」を1として算出した。

# 暴力経験による訪問看護師の仕事への影響分析

6-8.訪問看護事業所での経験年数に対する、暴力後の影響(N=94)



x軸は各経験年数カテゴリーの中間値を用い、0.5年、1年、1.5年、4年、7.5年、15年、25年として表した。思いの強さは「とても思った」を5、「少し思った」を4、「どちらでもない」を3、「あまり思わなかった」を2、「全く思わなかった」を1として算出した。

# 暴力経験による訪問看護師の仕事への影響分析

- 解説

- 経験の長さ的感情反応

- 専門職としての経験年数が増加するにつれて、暴力後「訪問に行きたくない」と感じる強さが減少傾向にあることが示されている。
- 一方で、訪問看護事業所での経験年数に関するグラフでは、経験年数の増加が感情反応に大きな変化をもたらさないことが観察される。

- この結果から、長年訪問看護に従事していても、暴力にあった際の業務パフォーマンスの低下は明らかであり、スムーズな訪問看護のためにはすべての従事者が安全な環境で業務出来るよう、フォローしていくことが重要である。

- その中でも特に訪問看護経験7年未満の従事者へのフォローは特に重要であると考えられる。

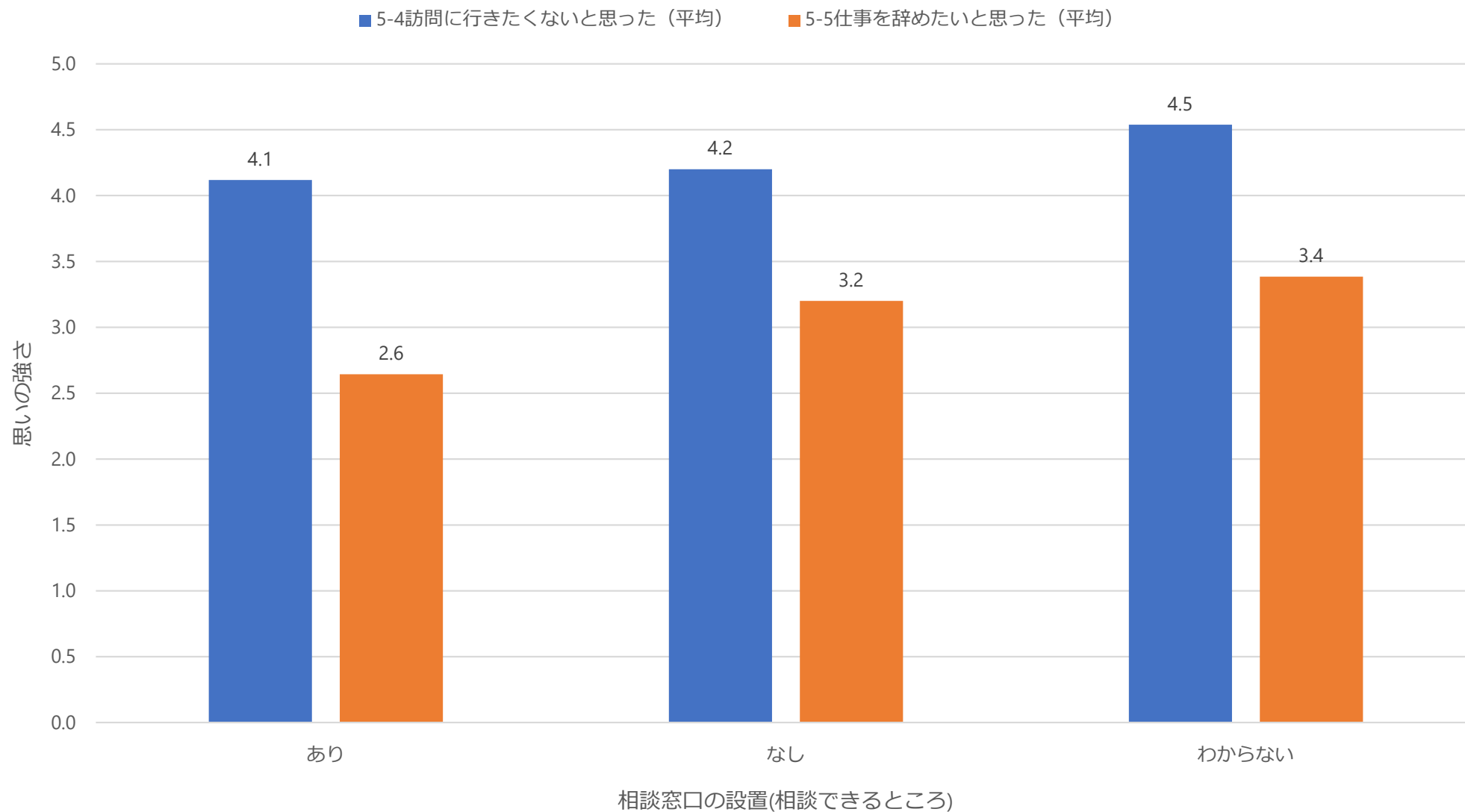
# 相談体制の有無による、暴力時の影響変化

- 目的
  - 相談体制が整っている場合とそうでない場合における、暴力事件後の訪問看護師の心理的・身体的影響の違いを分析することで、サポート体制の有効性が実証する。
- 対象
  - 「3-1.全業務期間における利用者・家族等からの暴力等を受けた」を「ある」とした回答者



# 相談体制の有無による、暴力時の影響変化

6-9.相談体制の有無による、暴力時の影響変化(N=94)



# 相談体制の有無による、暴力時の影響変化

- 解説

1. 相談体制の認知と感じ方の関係

- 相談体制があると認識しているグループは、暴力事案が発生した時に、その影響を「あまり感じない」と回答している割合が、「相談体制がない」と認識しているグループに比べて一貫して低いことが示されている。

2. 認知度の差異

- 「相談体制がある」と認識しているグループは、どのカテゴリーにおいても、相談体制の有無に関わらず暴力事案の影響をより少なく感じていると報告している。

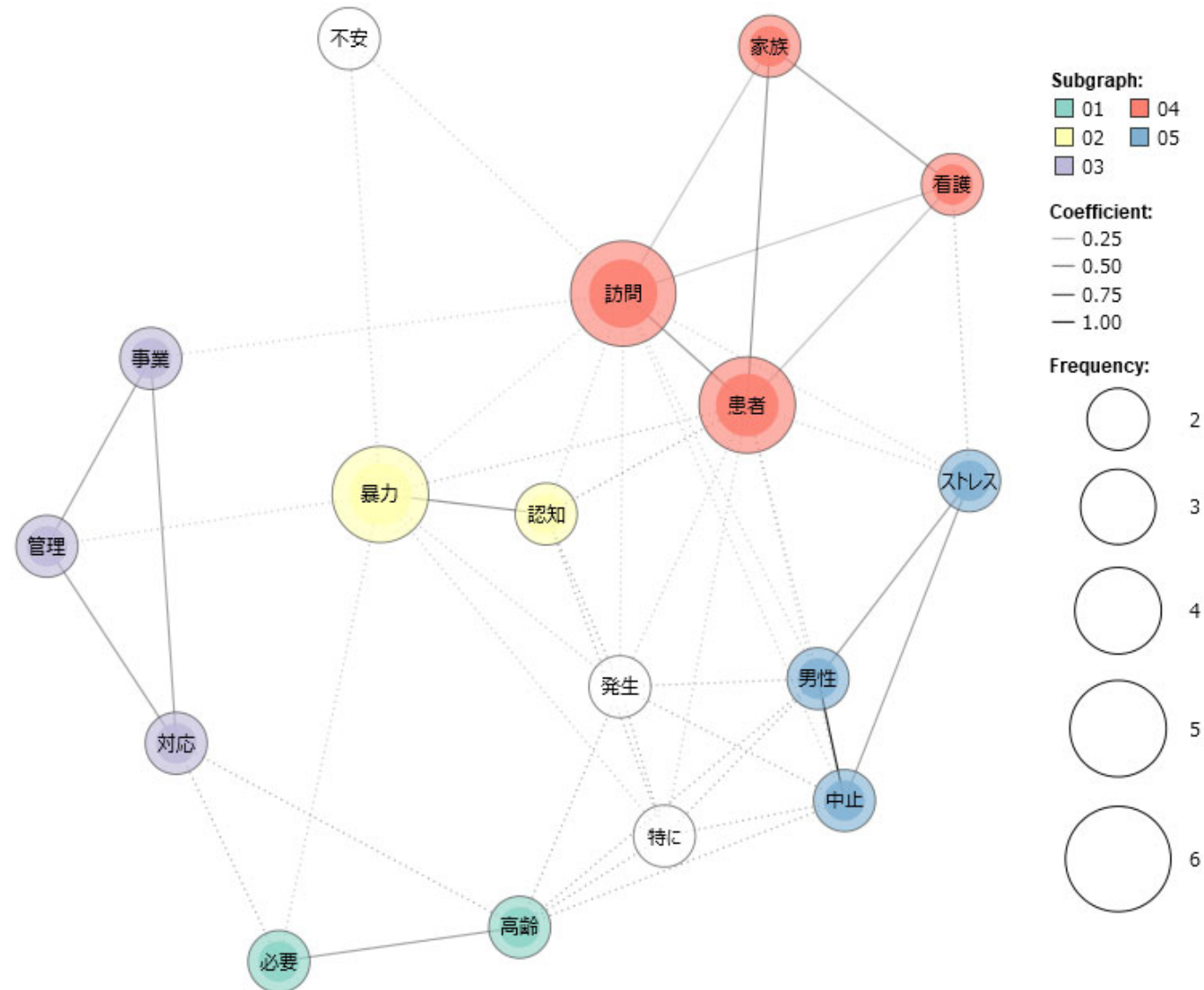
3. 不確実性の影響

- 「わからない」と回答しているグループの印象は、相談体制の認知が「ない」と答えたグループと似た傾向にあり、相談体制の認知度が低いことが、暴力の影響を大きく感じる要因となっている可能性がある。

- この結果は、暴力事案への対応に関する明確な相談体制があると認識されていることが、看護師が暴力事案の影響を感じる度合いを低減するのに寄与していることを示唆している。したがって、暴力事案への対応策として、相談体制の存在とアクセス方法を明確にすることが重要である。また、相談体制が存在することの認知を高めるための教育や情報提供が、職場での暴力事案の影響を減らす上で効果的な手段であるとも考えられる。

# 自由記述のテキストマイニング

6-10.自由回答の共起ネットワーク



# 自由記述のテキストマイニング

- Subgraph1：高齢患者の対応について
  - 高齢者によるハラスメントへの認識不足があり、対応が必要である。
- Subgraph2：認知症患者の対応について
  - 認知症患者からの暴力を我慢してしまうことがある。
- Subgraph3：事業所規模と人員について
  - 対応する事業所が小規模の場合、スタッフの交代が困難。管理者からの支援が必要。
- Subgraph4：患者家族について
  - 患者家族の過度な要求がある。協力関係を妨げる。夜間や単独訪問が不安。仕事への意欲が減衰。
- Subgraph5：男性患者について
  - 精神的ストレスは男性患者からのものが多く、訪問中止の要望がある。

# 調查票

---

# 調査票

【訪問看護師が利用者・家族等から受ける暴力等の実態調査...】

<https://docs.google.com/forms/u/0/d/13fNjDIH7ePDMpylJjv...>

## 【訪問看護師が利用者・家族等から受ける暴力等の実態調査2023】

調査の実施主体は福島県訪問看護連絡協議会です  
・利用者の居室においての状況でご回答ください

### 【定義】

- 身体的暴力とは、殴る、蹴る、物を投げつける、刃物などを突きつける、髪を引っばる、突き飛ばす
- 精神的暴力とは、大声でどなる、ののしる、長時間無視し続ける、ドアを蹴ったり、壁に物を投げつける、人格を否定する
- セクシュアルハラスメントとは、性的な行為を見せる、故意的に胸やおしりに触れてくる、見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

倫理的配慮：匿名で調査は実施しております  
・回答には10分程度の時間がかかります

調査の結果は情報公表や研究発表、要望書申請等に使用します

※ 必須の質問です

### 1. 1-1. 回答者の職種 \*

1つだけマークしてください。

- 看護師・保健師・准看護師  
 作業療法士・理学療法士  
 その他: \_\_\_\_\_

【訪問看護師が利用者・家族等から受ける暴力等の実態調査...】

<https://docs.google.com/forms/u/0/d/13fNjDIH7ePDMpylJjv...>

### 2. 1-2. 回答者の専門職としての経験年数 \*

1つだけマークしてください。

- 1年未満  
 1年以上2年未満  
 2年以上3年未満  
 3年以上5年未満  
 5年以上10年未満  
 10年以上20年未満  
 20年以上

### 3. 1-3. 回答者の年齢 \*

1つだけマークしてください。

- 10歳代  
 20歳代  
 30歳代  
 40歳代  
 50歳代  
 60歳代  
 70歳代  
 その他

# 調査票

【訪問看護師が利用者・家族等から受ける暴力等の実態調...

<https://docs.google.com/forms/u/0/d/13fNjDIH7ePDMpylJjv...>

4. 1-4. 回答者の性別 \*

1つだけマークしてください。

- 女性  
 男性  
 その他

5. 1-5. 回答者の訪問看護事業所での経験年数 \*

1つだけマークしてください。

- 1年未満  
 1年以上2年未満  
 2年以上3年未満  
 3年以上5年未満  
 5年以上10年未満  
 10年以上20年未満  
 20年以上

6. 1-6. 回答者の直近1週間の延べ訪問件数 \*

\_\_\_\_\_

7. 1-7. 回答者の訪問看護事業所での雇用形態 \*

1つだけマークしてください。

- 管理者  
 従事者  
 その他 \_\_\_\_\_

【訪問看護師が利用者・家族等から受ける暴力等の実態調...

<https://docs.google.com/forms/u/0/d/13fNjDIH7ePDMpylJjv...>

8. 1-8. 相談窓口の設置(相談できる場所) \*

1つだけマークしてください。

- あり  
 なし  
 わからない

2. 過去1年間における暴力等の状況

過去1年間の状況についてお答えください

9. 2-1. 過去1年間における利用者・家族等からの暴力等 \*

1つだけマークしてください。

- あり  
 なし

10. 2-2. 過去1年間における利用者・家族等からの暴力等の内容。該当するもの全てを選択してください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 身体的暴力  
 精神的暴力  
 セクシュアルハラスメント  
 なし

# 調査票

【訪問看護師が利用者・家族等から受ける暴力等の実態調...

<https://docs.google.com/forms/u/0/d/13fNjDIH7ePDMpyIJJv...>

11. 2-3. 過去1年間における暴力等は誰から受けましたか。該当するもの全て \*  
を選択してください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 利用者  
 家族  
 家族以外  
 なし  
 その他: \_\_\_\_\_

## 3. 全業務期間における暴力等の状況

訪問看護での全業務期間における状況についてお答えください

12. 3-1. 全業務期間における利用者・家族等からの暴力等

1つだけマークしてください。

- あり  
 なし

13. 3-2. 全業務期間における利用者・家族等からの暴力等の内容。該当するもの全てを選択してください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 身体的暴力  
 精神的暴力  
 セクシュアルハラスメント  
 なし

【訪問看護師が利用者・家族等から受ける暴力等の実態調...

<https://docs.google.com/forms/u/0/d/13fNjDIH7ePDMpyIJJv...>

14. 3-3. 全業務期間における暴力等は誰から受けましたか。該当するもの全て \*  
を選択してください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 本人  
 家族  
 家族以外  
 なし  
 その他: \_\_\_\_\_

## 4. 事業所に希望する対応

事業所に希望する対応についてお答えください

15. 4-1. 事業所に希望する対応。該当するもの全てを選択してください。 \*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 今後の対応について明確に示して欲しかった  
 複数人で訪問する体制をとって欲しかった  
 具体的対応について話し合う場が欲しかった  
 他の機関や事業所と情報共有を行う必要があった  
 被害を受けた職員は訪問しないように調整して欲しかった  
 訪問の契約を打ち切って欲しかった  
 報告した際、暴力の事実を認めて欲しかった  
 休暇を取得したかった  
 サービス提供を継続するように調整して欲しかった  
 その他: \_\_\_\_\_



# 調査票

【訪問看護師が利用者・家族等から受ける暴力等の実態調査】

<https://docs.google.com/forms/u/0/d/13fNjDIH7ePDMpylJjv...>

16. 4-2. 事業所に希望する対応について \*  
最も希望する対応を3つまで選択してください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 今後の対応について明確に示して欲しかった
- 複数人で訪問する体制をとって欲しかった
- 具体的対応について話し合う場が欲しかった
- 他の機関や事業所と情報共有を行う必要があった
- 被害を受けた職員は訪問しないように調整して欲しかった
- 訪問の契約を打ち切って欲しかった
- 報告した際、暴力の事実を認めて欲しかった
- 休暇を取得したかった
- サービス提供を継続するように調整して欲しかった
- その他: \_\_\_\_\_

## 5. 利用者・家族等からの暴力等を受けた後の影響

暴力等を受けた後の影響についてお答えください

17. 5-1. 利用者・家族等からの暴力等を受けた後の影響 \*

1つだけマークしてください。

- あり
- なし

18. 5-2. 仕事を休んだ \*

1つだけマークしてください。

- はい
- いいえ

【訪問看護師が利用者・家族等から受ける暴力等の実態調査】

<https://docs.google.com/forms/u/0/d/13fNjDIH7ePDMpylJjv...>

19. 5-3. その利用者の訪問業務を離れた \*

1つだけマークしてください。

- はい
- いいえ

20. 5-4. 訪問に行きたくないと思った \*

1つだけマークしてください。

- とても思った
- 少し思った
- どちらでもない
- あまり思わなかった
- 全く思わなかった

21. 5-5. 仕事を辞めたいと思った \*

1つだけマークしてください。

- とても思った
- 少し思った
- どちらでもない
- あまり思わなかった
- 全く思わなかった

# 調査票

【訪問看護師が利用者・家族等から受ける暴力等の実態調...

<https://docs.google.com/forms/u/0/d/13fNjDIH7ePDMpyjJjv...>

22. 自由記述

---

---

---

---

---

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

## 本集計・分析に関するお問い合わせは下記までお願いします。

- 調査内容に関するお問合せ

- 一般社団法人福島県訪問看護連絡協議会

TEL: 024-926-1223 FAX: 024-926-1226

E-mail: info@flan.jp

- 分析内容に関するお問合せ

- 一般社団法人オープンデータラボ 本件担当：長井 英之

TEL: 080-7012-8317

E-mail: h.nagai@odl.or.jp